

Owner's manual
Manual de uso y mantenimiento
Manuel d'utilisation et entretien
オーナーズマニュアル

STREETFIGHTER

STREETFIGHTER 848



オーナーズマニュアル

STREETFIGHTER

STREETFIGHTER 848

この度は Ducati 製品をお買い上げ頂きありがとうございます。貴方をドゥカティストの仲間としてお迎えできるのは、私達にとって何よりの喜びです。この新しいバイクでは日常的に利用されるだけでなく、ロングツーリングも楽しめることと思います。Ducati Motor Holding S.p.A. は、そのライディングが常に快適で楽しいものであるよう願っています。

私達は、常にアフターサービスの改善に努めていますが、その努力の一環として、お客様にこのマニュアルに記載された正しい使用方法、特に慣らし運転の項を遵守していただけますようお願い致します。そうすることにより、Ducati はあなたの要求にいつでも応え、最高のライディングがいつも楽しめることでしょう。修理作業や適切なアドバイスが必要な場合は、Ducati オフィシャルディーラーにご連絡下さい。誰よりも Ducati を熟知したエキスパート達が、いつも万全の体制でお客様のご要望にお応え致します。

楽しいライディングを！



参考

Ducati モーターホールディング社は、本マニュアルの編集過程での誤りに対し、いかなる責任も負うものではありません。ここに記載された情報は、印刷時点において最新のものです。Ducati モーターホールディング社は、製品を改良、発展させていくために必要とされる、あらゆる変更を行う権利を保有します。

安全のため、そして保証を有効にするため、また Ducati モーターサイクルの信頼性、価値を保証するため、Ducati オリジナルパーツのみをご使用下さい。



警告

本マニュアルは車両の一部とみなされ、車両を売却する際には、常に新しい所有者に渡さなければなりません。

目次

はじめに 7

保証について 7

シンボルマーク 8

安全運転のための注意事項 8

最大積載時の運転 9

識別データ 10

インストルメントパネル (ダッシュボード) 11

インストルメントパネル 11

LCDの主な機能 13

LCDパラメーター設定 / 表示 15

総走行距離 "オドメーター" 表示 18

走行速度表示 19

エンジンクーラント温度表示 20

"TRIP" メーター表示 21

リザーブタンクの走行距離インジケーター

"TRIP FUEL" 22

時刻表示 23

外気温表示 24

メンテナンス時期表示 25

バッテリーテンション表示 (BAT) 26

エンジンアイドリング (RPM) の調整 27

画面表示バックライトの調整 (LIGHT SET) 28

ラップタイム表示 (LAP) 29

ラップメモリーデータの表示

(LAP Memory) 31

DDA コンパレーター 32

Erase DDA 33

Ducati Traction Control システム / 起動機能 34

システムの起動 35

DTC セッティング機能 (Ducati Traction Control) 36

レベルの選択に際しての注意事項 38

サーキットでの使用時のアドバイス 39

一般道での使用時のアドバイス 39

クイックシフトの起動 / 停止機能 (DQS ON/OFF) 40

時計の調整 41

インストルメントパネルの診断 42

ターンインジケーターの自動リターン機能 47

ヘッドランプ "段階敵" 点灯機能 47

ヘッドランプ "インテリジェンス" 消灯機能 47

イモビライザーシステム 48

キー 48

コードカード 49

イモビライザーの解除作業 50

作業 52

キーの複製 52

運転時に必要なコマンド 53

コマンド類の配置 53

イグニッションスイッチ / ステアリングロック	54
左側スイッチ	55
クラッチコントロールレバー	56
右側スイッチ	57
スロットルグリップ	57
フロントブレーキレバー	58
リアブレーキコントロールペダル	59
ギアチェンジコントロールペダル	59
ギアチェンジペダルおよびリアブレーキペダルの位置調整	60

主要構成部品 / 装備 62

車両上の配置	62
フューエルプラグ	63
シートロック	64
サイドスタンド	65
フロントフォークアジャスターの調整	66
リアショックアブソーバーアジャスターの調整	68

運転のしかた 70

慣らし運転の方法	70
走行前の点検事項	72
エンジンの始動	73
車両の発進	75
ブレーキ操作	75
車両の停止	76
パーキング	76
燃料の補給	78
付属アクセサリ	79
USB コンパレーター	80

主な整備作業とメンテナンス 81

エアフィルターの交換	81
クーラントレベルの点検および補充	81
ブレーキ / クラッチ液レベルの点検	82
ブレーキパッドの摩耗点検	84
ジョイント部の潤滑	85
スロットルグリップの調整	86
バッテリーの充電	87
トランスミッションチェーン張力の点検	88
チェーンの潤滑	89
ハイ / ロービーム電球の交換	90
リアターンインジケータ	91
ナンバープレートランプ	91
ヘッドランプの光軸調整	92
チューブレスタイヤ	94
エンジンオイルレベルの点検	96
スパークプラグの清掃と交換	97
車両の清掃	98
長期間の保管	99
重要注意事項	99

メンテナンス 100

メンテナンスプログラム:	
ディーラーで行うメンテナンス	100
メンテナンスプログラム:	
お客様が行えるメンテナンス	103

テクニカルデータ 104

全体寸法 (mm)	104
重量	104

エンジン	106
タイミングシステム	106
性能データ	107
スパークプラグ	107
燃料供給	107
ブレーキ	108
トランスミッション	109
フレーム	110
ホイール	110
タイヤ	110
サスペンション	110
エキゾーストシステム	111
カラーバリエーション	111
電気トリカルシステム	111

定期点検メモ 116

はじめに



警告

この車両にはエタノール含量が10%以下の燃料（E10）のみ使用することができます。エタノール含量が10%以上のガソリンを使用することは禁止されています。この燃料を使用すると車両のエンジン及び部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が10%以上のガソリンを使用すると保証の対象外になります。

保証について

あなた自身のため、また製品の信頼性を保証するために、特に専門的技術が要求される整備作業は、Ducati オフィシャルディーラーまたはサービスセンターにご依頼頂くよう強くお勧めします。

Ducati オフィシャルディーラーの熟練したスタッフが、どのような整備作業にも対応できる適切な器具と、完璧な互換性、円滑な作動、ロングライフを保証するDucati オリジナルパーツのみを使用し、最善のサービスを提供致します。

全てのDucati モーターサイクルには保証書が付属しています。競技に使用した車両や、十分なメンテナンスが行われていない車両は保証の対象外となります。また保証期間中に、車両の一部あれ、Ducati オリジナルパーツ以外の部品と交換したり、改造したり、変更したりした場合、保証は適用されません。

シンボルマーク

Ducati Motor Holding S.p.A. このバイクについてより良く理解するため、当マニュアルをよくお読み下さい。車両について、不明な点、さらに詳しくお知りになりたい点がある場合は、ディーラーまたは認定サービスセンターへお問い合わせ下さい。当マニュアルに記載された情報は、あなたの走行にきつと役立つことでしょう。Ducati モーターホールディング社は、快適で楽しい走行を願いつつ、長期にわたってあなたの車両性能が保たれるようお手伝いしていきたくて思っております。本マニュアルには注意事項として、下記のシンボルマークが使用されています：



警告

この説明を遵守しなかった場合、重度の負傷および死亡に至る危険性があります。



重要

車両や車両構成部品に損傷を与える可能性があります。



参考

作業上の追加注意事項。

文中の「右」、「左」の表記は乗車位置から見た位置です。

安全運転のための注意事項



警告

運転を開始する前によく読んで下さい。

多くの事故は経験不足のために起こります。無免許では運転しないでください。また、免許証は適した車種および有効期限内のものが必須です。

あなたの車両を未経験者および有効免許証を持っていないライダーに貸さないで下さい。

ライダー、パッセンジャー共に常に適した服装、およびヘルメット着用の義務があります。

アクセサリなどが視界を制限したり、操作の妨げになることのない適切なライディングウエアを着用して下さい。

屋内では絶対にエンジンを始動したり、作動させたりしないで下さい。排気ガスは有毒ですので、短時間で意識を失ったり、さらには死に至る危険性があります。

ライダー、パッセンジャー共に、走行中は足をフットレストに乗せておいて下さい。

急な方向変更や路面状態の違いに対応できるよう、ライダーは常に両手でハンドルを保持し、パッセンジャーはパッセンジャーシートにあるハンドルを常に持っていないければなりません。

走行地域の道路交通法、法律等を遵守して下さい。常に指示された速度制限を厳守するとともに、視界や道路条件、混雑の割合に合わせて、常に速度を調整して下さい。

車線を変える時や曲がる時には、常に適切にターンインジケーターを使用し、早めに合図を出して下さい。

良好な視界を保ち、前方車両の“死角”に入らないよう注意して走行して下さい。

交差点や私有地の出口に近い場所、駐車場、高速道路への進入路等を走行する際は十分に注意して下さい。

給油の際は常にエンジンを停止し、エンジンやエキゾーストパイプにガソリンがこぼれないよう注意して下さい。

給油時には絶対に喫煙しないで下さい。

給油の際に、人体に有毒な気体ガソリンを吸い込む可能性があります。万一ガソリンが皮膚や衣服に付着した場合は、直ちに石鹸と水で洗浄し、衣服を着替えて下さい。

車両から離れるときには、必ずキーを抜いて下さい。

エンジン、エキゾーストパイプ、サイレンサーは、エンジン停止後も長時間高温を帯びています。



警告

エンジン停止後でもエキゾーストユニットは高温の場合があるので、手を触れないよう充分注意し、車両を木材、木の葉などの可燃物のそばに駐車しないようにして下さい。

車両は人や物がぶつからないような場所にサイドスタンドを使用して停車して下さい。

平面でないところや柔らかい地面、および車両が倒れる可能性がある場所には絶対に停車しないで下さい。

最大積載時の運転

このバイクは最大積載時でも長距離を安全に走行できるように設計されています。

重量をバランス良く配分することは、通常の安全走行に必要な注意事項です。凸凹な道を走行したり、急な進路変更を必要とする際のトラブルを避けるために、非常に重要です。

積載容量について

走行時の車両総重量は

ライダー、パッセンジャー、荷物、オプションパーツの重量の合計で
390 Kg

積み荷は車両の中心に近く、できる限り低い位置に配置するよう努めて下さい。

バッグなどの荷物は車体にしっかり固定してください。確実に固定されていない場合、運転が不安定になる危険があります。

車両が不安定になりますので、ステアリングヘッドやフロントマッドガード部に、体積や重量のかさむものを固定しないで下さい。

車両の可動部分の妨げになる恐れがありますのでフレームのすき間に絶対に物を挟まないで下さい。

タイヤが 94 ページに定められた規定空気圧内で、良いコンディションであることを確かめて下さい。

識別データ

すべての Ducati モーターサイクルはフレームナンバー (図 1) とエンジンナンバー (図 2) の 2 種類の番号で識別します。

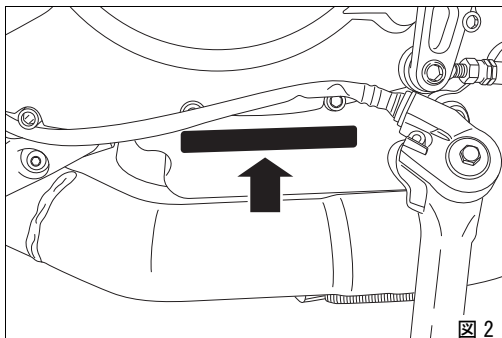
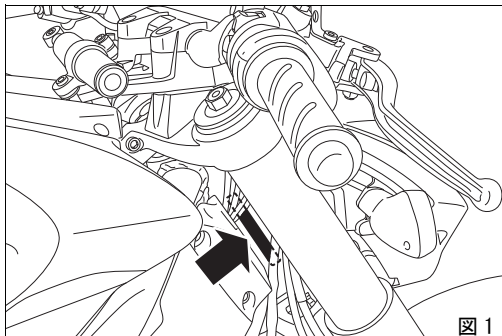
フレーム N.

エンジン N.



参考

これらの番号は車両モデルを識別するもので、部品を注文する際にも必要です。



インストルメントパネル (ダッシュボード)

インストルメントパネル

1) LCD(13 ページ参照)

2) タコメーター (rpm)

1 分間のエンジン回転数を表示します。

3) ニュートラルランプ N (緑)

ギアポジションがニュートラルの時に点灯します。

4) リザーブ燃料警告灯 (琥珀色)

燃料レベルがリザーブ状態になると点灯します。約 2 リットルになったときに点灯します。

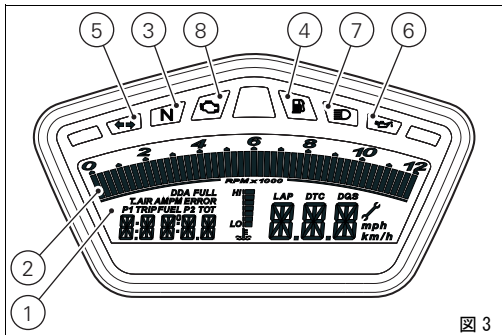
5) ターンインジケータ表示灯 (緑)

ターンインジケータが ON の際に点滅します。

6) エンジンオイル圧警告灯 (赤)

エンジンオイルのプレッシャーが低すぎる時に点灯します。イグニッションスイッチを ON にすると点灯し、通常はエンジン始動後数秒で消灯します。

エンジン温度が高い時に、場合によっては数秒間点灯することがありますが、回転数が上がると消灯します。



重要

このランプ (6) が点灯続けている場合は、エンジンに重度の破損をもたらす恐れがあるので、車両を使用しないで下さい。

7) ハイビーム表示灯 (青)

ハイビームが ON の時に点灯します。

8) “車両 / エンジン診断 - EOBBD” ランプ (琥珀色)

CPU からエンジンおよび / または車両エラー情報を受け取った場合は連続点灯し、エンジンブロック状態になる場合もあります。

9) リミッターランプ - OVER REV (赤)

9B+9C ランプ: リミッターに達する 400 rpm 前に固定点灯します。

9A+9B+9C ランプ: リミッターに達する 800rpm 前に固定点灯します。

9A+9B+9C ランプ: リミッターに達した時に点滅します。

10) トラクションコントロール灯 (赤) (図 4)

10B+10C ランプ: DTC 起動時、エンジントルクが少し低下すると点灯します。

10A+10B+10C ランプ: DTC 起動時、エンジントルクが大幅に低下すると点灯します。

11) コントロールボタン (図 5)

インストルメントパネル "▲" 上の設定および表示に使用するボタン

12) コントロールボタン (図 5)

インストルメントパネル "▼" 上の設定および表示に使用するボタン。

13) フラッシャーランプボタン FLASH (図 5)

このボタンは通常ハイビーム点滅機能に使用しますが、LAP 機能およびインストルメントパネルの DDA コンパレータール用にも使用します。

14) ターンインジケータ解除ボタン (図 5)

このボタンは通常ターンインジケータの解除機能に使用しますが、インストルメントパネルのリセット / 決定機能にも使用します。

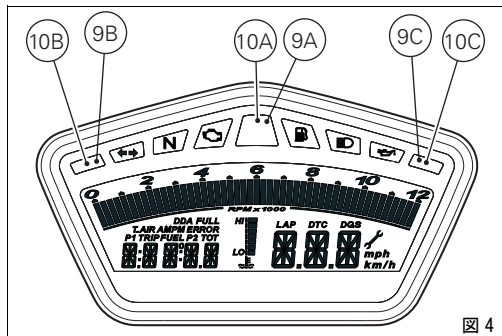


図 4

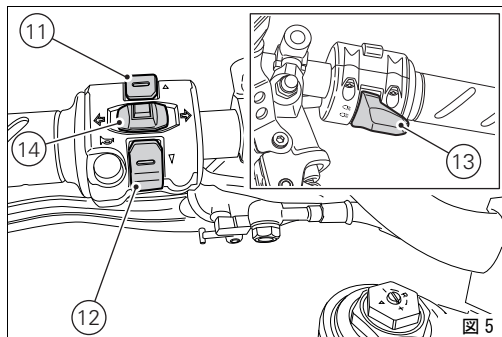


図 5

LCD の主な機能



警告

インストルメントパネルでの操作は必ず車両が停止している時に行なって下さい。走行中にインストルメントパネルの操作は絶対に行わないで下さい。

- 1) スピードメーター。
走行速度を表示します。
- 2) オドメーター。
総走行距離を示します。
- 3) トリップメーター。
リセット後の走行距離を表示します (TRIP)。
- 4) フューエルトリップメーター。
リザーブに入ってからでの走行距離を示します。
- 5) 時計。
- 6) ラップタイム。
- 7) エンジン回転数表示 (RPM)。
- 8) ラップタイムの記録、最大 RPM (LAP) およびリミッターのステータス (到達時)。
- 9) バッテリーテンション表示 (BATT)。
- 10) 外気温度表示。
- 11) クーラント温度表示。
エンジンクーラント温度を表示します。



重要

温度が最高に達した時は車両を使用しないで下さい。エンジンを傷める可能性があります。

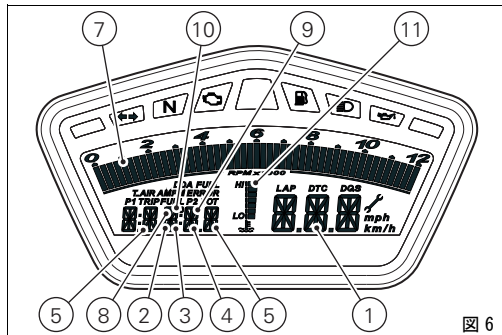


図 6

12) 定期メンテナンス時期表示。

定期メンテナンス時期であることをインジケーターが点灯して知らせます。

Ducati ディーラーまたはサービスセンターにてメンテナンスを受けた後、ディスプレイ上の表示がリセットされます。

13) LAP 機能

LAP 機能が起動していることを示します。

14) DDA 機能

DDA 機能が起動していることを示します。

15) トラクションコントロール (DTC)。

DTC コントロールユニットが起動していることを示します。

16) DQS 機能

DQS 機能が起動していることを示します。

重要

インストールメントパネルによってインジェクション/イグニッションシステムの診断を行います。この機能（技術者のみの機能）に間違って入ってしまった場合は、絶対に使用せず、キーを OFF にしてください。問題がある場合は、必要な点検作業を行うため、ディーラーまたは Ducati サービスセンターにご連絡下さい。

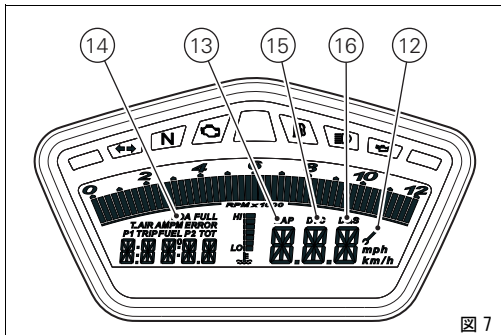


図 7

LCD パラメーター設定 / 表示

イグニッションキーを OFF から ON にすると、インストルメントパネルは LCD 上の全ての計器を 1 秒間起動し、ランプ類を順番に点灯します。

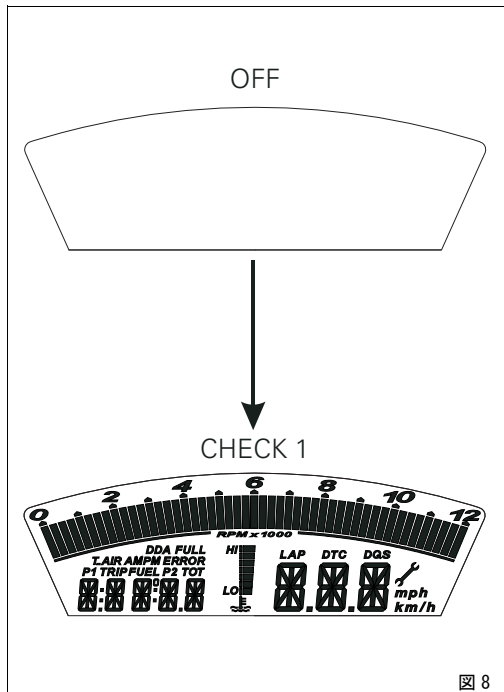
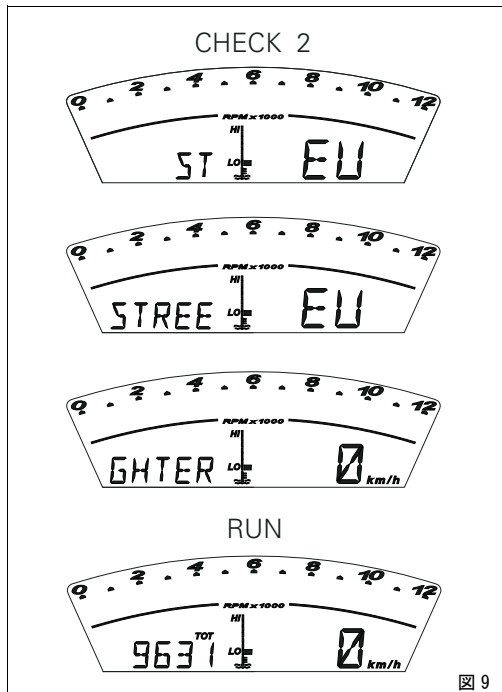


図 8

その後、走行距離表示位置にモデルを表示する“通常表示”に戻り、走行距離表示位置には2秒間バージョンを表示します(EU、UK、USA、CND、FRA、JAP)。

モデル表示は1回“スクロール”表示されます。



キーを ON にするとインストルメントパネルは以下の情報を常に表示します（トラクションコントロール以外の既起動されている機能を OFF にします）：

オドメーター

スピード

エンジン回転数棒グラフ

エンジンクーラント温度棒グラフ

ボタン“▲”（1、図 10）を使用し、オドメーター（TOT）機能から以下の機能に移る事ができます：

TRIP

TRIP FUEL（起動している時のみ）

時計

T_AIR

DTC（トラクションコントロールが装備され機能している時のみ可能）

オドメーター（TOT）機能に戻ります。

ボタン“■”（2、図 10）を押すと、システムはメニューに入り以下の機能を順に表示します：

ERROR（最低 1 つのエラーを検知している時のみ）

BATT

RPM

LIGHT SET

LAP（OFF または ON）

LAP MEM

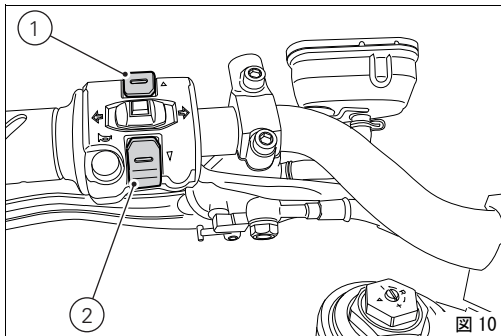
DDA（OFF または ON）

ERASE DDA

DTC OFF/ON（トラクションコントロール搭載機種でのみ起動）

DTC SETUP（DTC 起動時にのみ起動）

DQS OFF/ON（Performance シフトキット、部品番号 96524412A が車体に取り付けられている場合のみ機能します）



TIME SET

CODE - コード（起動している時のみ）



警告

Performance シフトキット、部品番号 96524412A の取り付けは、Ducati オフィシャルディーラーまたはサービスセンターにご依頼下さい。



重要

このメニューは車速が 20km/h 以下の場合にのみ有効です。この MENU モードに入っているときに車両のスピードが時速 20 km/h を超えた場合は、インストルメントパネルはこのモードから自動的に初期表示に移ります。どのような場合でも“▼”のボタン（2、図 10）を 3 秒間押すと、このメニューを終了させることができます。

JP

総走行距離“オドメーター”表示

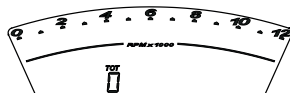
この機能では総走行距離を表示します。

キー ON でシステムは自動的にこの機能に入ります。

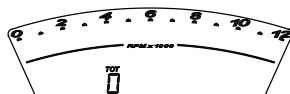
データは永久的に記録され、リセットする事はできません。

数値が 99999 Km (または 99999 マイル) を越えると、表示は“99999”のまま残ります。

EU、CND、FRA、JAP バージョン



UK、USA バージョン



走行速度表示

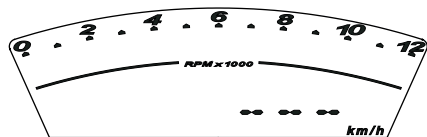
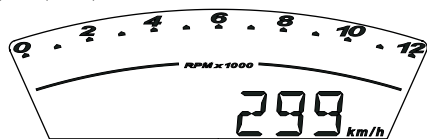
この機能では走行速度を表示します。

インストルメントパネルは実際の速度 (km/h) 情報をコントロールユニットから受け取り、8% 増大させたデータを表示します。

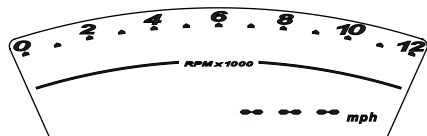
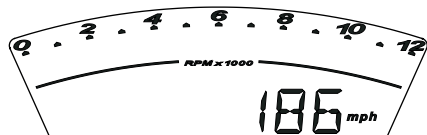
表示可能最高速度は 299 km/h (186 mph) です。

299 Km/h (186 mph) 以上の場合、インストルメントパネル上 “- - -” (連続表示) が表示されます。

EU、CND、FRA、JAP バージョン



UK、USA バージョン

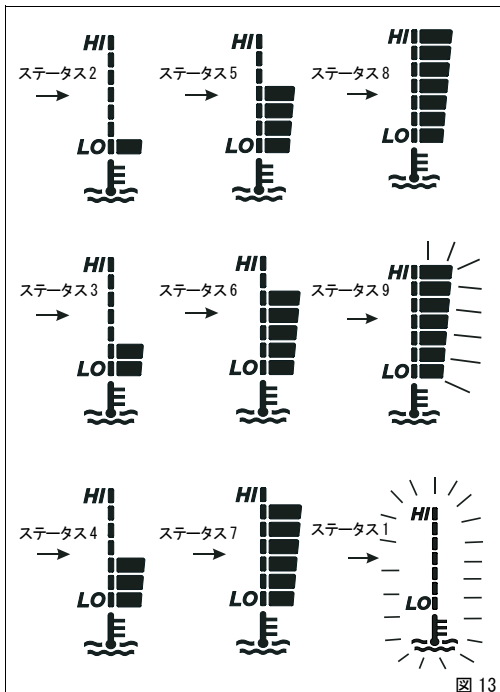


エンジンクーラント温度表示

エンジンクーラントに関する表示機能について記述します。

表示：

- 温度が $+40^{\circ}\text{C}$ 以下の場合、インストルメントパネルには“ステータス 2”と表示されます。
- 温度が $+40^{\circ}\text{C} \sim +120^{\circ}\text{C}$ 間の場合、パネル上には温度の上昇に伴い3、4、5、6、7、8、の数字が表示されず。
- 温度が $+120^{\circ}\text{C}$ 以上の場合、インストルメントパネルには“ステータス 9”と印しが点滅表示されます。
- センサーエラーの場合には“ステータス 1”が点滅表示されます。



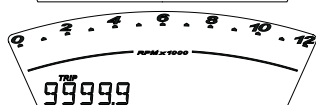
“TRIP”メーター表示

この機能では部分的走行距離を表示します。

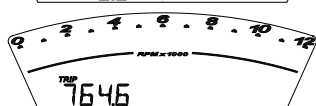
この機能が表示されている時にボタン (1、図 10) “▲” を 3 秒間押すと、データはリセットされます。

データが 999.9 に達すると、走行距離はリセットされ、自動的に 0 からスタートします。

EU、CND、FRA、JAP バージョン



UK、USA バージョン



リザーブタンクの走行距離インジケータ“TRIP FUEL”

この機能はリザーブに入ってから走行距離を表示します。リザーブランプが点灯した時点で、どの機能が表示されている場合でも、自動的にフューエルトリップ表示に変わります。

リザーブタンク使用の状態が続く場合は、値はキーオフ後もメモリに記憶されます。

カウンタは、給油後にリザーブでなくなった時点で自動的に中断します。

データが999.9に達すると、カウンタはリセットされ、自動的に0からスタートします。

EU、CND、FRA、JAP バージョン



UK、USA バージョン



時刻表示

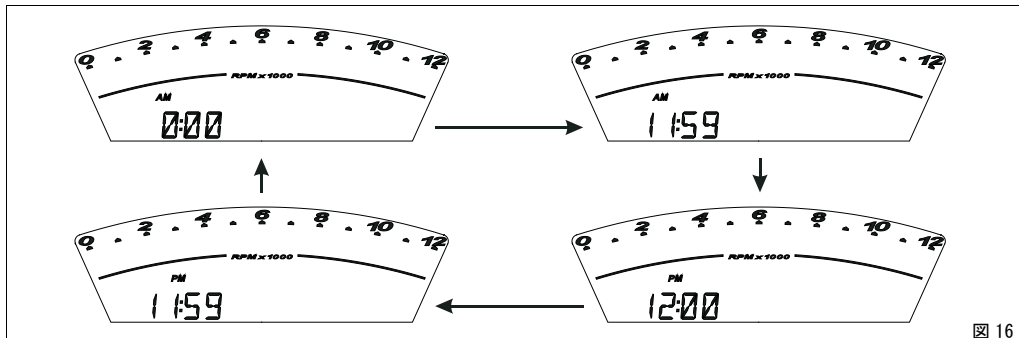
この機能は時刻を表示します。

時刻は常に以下のように表示されます：

AM 0:00 から 11:59

PM 12:00 から 11:59

バッテリー電源が中断された場合 (Batt-OFF)、電源の確保および次のキーオン時に時計はリセットされ、自動的に“0:00”から再開します。



外気温表示


この機能では外気温を表示します。

表示の範囲： -39°C ~ $+124^{\circ}\text{C}$

センサーエラー (FAULT) の場合 (-40°C 、 $+125^{\circ}\text{C}$ または電源 OFF) は “- - -” が固定表示され、続けて車両 / エンジン診断 - EOBД ランプが点灯し (8、図 3)、メニューの “エラー” リストに記録されます。

EU、CND、FRA、JAP バージョン



+  車両 / エンジン
診断

UK、USA バージョン





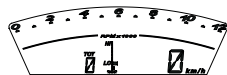
+  車両 / エンジン
診断

図 17

メンテナンス時期表示

メンテナンス（車検）時期であることを表示します。
定期メンテナンス時期が来た事をインジケータ（) が点灯して知らせます。
インストルメントパネルはメンテナンス表示を以下の走行距離で表示します：
オドメーターでの走行距離が 1000 Km を超えた時
オドメーターでの走行距離 12000 Km ごと
表示はリセットされるまでインストルメントパネル上に連続表示されます。
表示されたら、ディーラー、またはサービスセンターにご連絡ください。

EU、CND、
FRA、JAP
バージョン



リセット



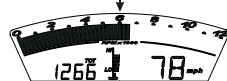
"MAINT" の点灯

"MAINT" の点灯

UK、USA パー
ジョン



リセット



"MAINT" の点灯

"MAINT" の点灯

図 18

JP

バッテリーテンション表示 (BAT)

ここではバッテリーテンション表示機能を説明します。
機能を表示するには、メニューから“BAT”ページを選択します。

インストールメントパネルはバッテリーテンションに関する情報を以下の順で表示します：

- データが 12.1 ~ 14.9 V 間の場合、数値は固定表示されます。
- データが 10.0 ~ 12.0 Volt 間、または 15.0 ~ 16.0 Volt 間の場合、数値が点滅表示されます。
- データが 9.9 Volt 以下の場合、“LO” が点滅表示され、“車両 / エンジン診断 -E0BD” ランプ (8、図 3) が点灯します。
- データが 16.1 Volt 以上の場合、“HI” が点滅表示され、“車両 / エンジン診断 -E0BD” ランプ (8、図 3) が点灯します。

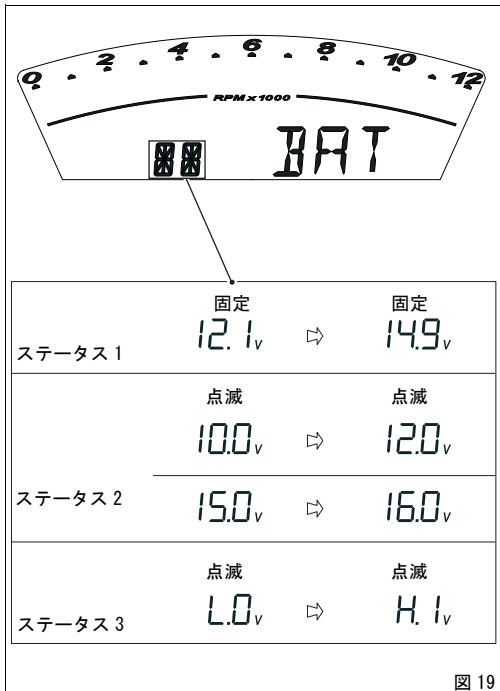


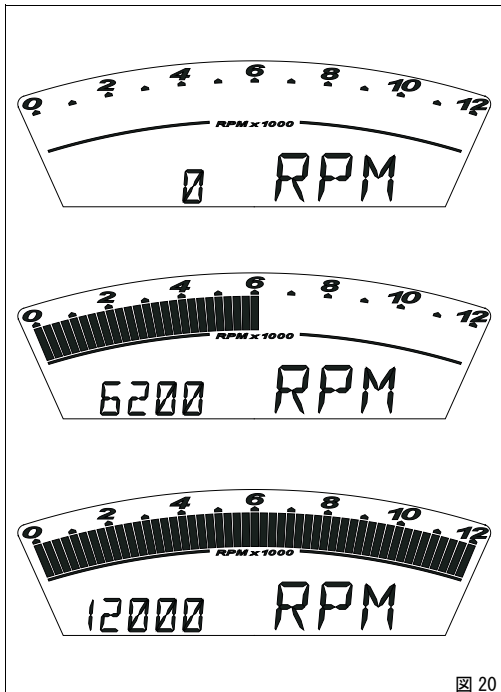
図 19

エンジンアイドリング (RPM) の調整

ここではアイドリング調整機能を説明します。

機能を表示するには、メニューから“RPM”ページを選択します。

インストールメントパネルでは rpm メーター以外に、アイドリング調整をより正確に行う為、エンジン回転数 (rpm) を数字で表示します。



画面表示バックライトの調整 (LIGHT SET)

この機能ではインストルメントパネル画面上の光の調整を行います。

機能を使用するには、メニューから“LIGHT SET” ページを選択します。

このページに入った状態でリセットボタン (14、図 5) を 3 秒押すと調整機能に入り、以下のページが表示されます。

1 ページ - “LIGHT MAX” セットアップ:

このページでは、バックライトは一番明るい状態です。ボタン (1、図 10) “▲” を押すと、2 ページ目に移ります。

2 ページ - “LIGHT MID” セットアップ:

このページでは、バックライトは一番明るい状態から約 30% 減少した明るさになります。ボタン (1、図 10) “▲” を押すと、3 ページ目に移ります。

3 ページ - “LIGHT MIN” セットアップ:

このページでは、バックライトは一番明るい状態から約 70% 減少した明るさになります。ボタン (1、図 10) “▲” を押すと、1 ページ目に戻ります。

3 ページ中、いずれかのページでリセットボタン (14、図 5) を 3 秒間押すと、そのページの設定を記録した後、最初の“ライトセット (LIGHT SET)” 画面に戻ります。

バッテリーが中断された場合 (Batt-OFF)、電源の確保および次の Key-On 時に画面の光調整もリセットされ、最大レベルにセットされます。

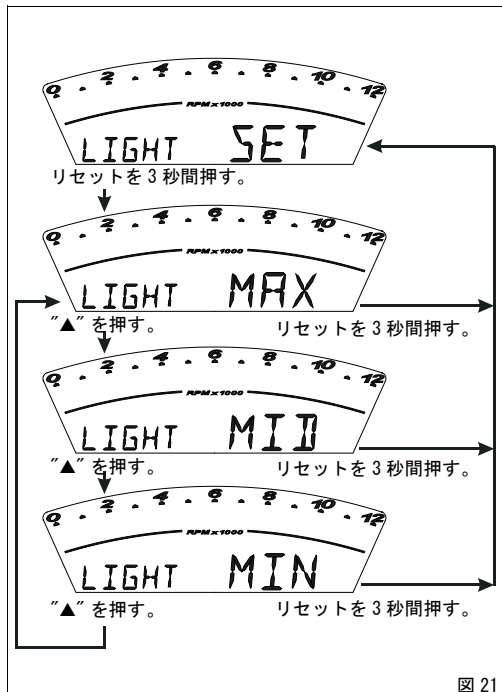


図 21

ラップタイム表示 (LAP)

ここではラップタイム表示機能を説明します。

この機能を使用するには、メニューに入り、リセットボタン (14、図 5) を 3 秒押しして“LAP”機能を“On”にします。クロノメーターの START および STOP は左側スイッチにあるフラッシャーボタン (13、図 5) を介して行います。

LAP 機能中フラッシャーボタンを押すたびに、インストールメントパネル上に 10 秒間ラップタイムが表示され、その後通常表示に戻ります。

30 回までラップタイムを記録する事が出来ます。

メモリーがフルの場合、メモリーがリセットされるまでは、フラッシャーボタンを押すたびに、ラップタイムを記録せずにインストールメントパネル上に 3 秒間“FULL”と点滅表示されます。

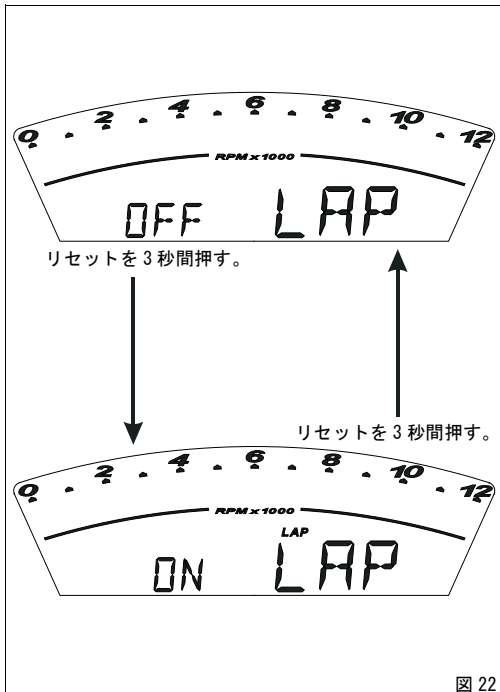


図 22

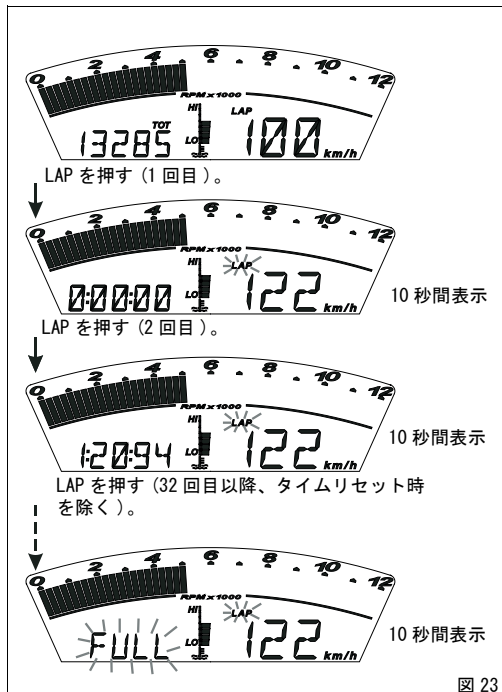
LAP 機能をメニューを介して OFF にした場合、そのラップは記録されません。

LAP 機能使用中に突然インストルメントパネルが OFF になった場合（キー OFF）、LAP 機能は自動的に OFF になります（クロノメーターが作動していても、ラップタイムは記録されません）。

ラップタイムの“STOP” 指示が出されなかった場合、9 分 59 秒 99 の時点でクロノメーターは 0 に戻り、ストップ指示が出されるまでラップタイムを測定し続けます。

LAP 機能が ON にされ、メモリーがリセットされていないが、記録されているメモリーが 30 以下の場合（例：18 回記録済み）インストルメントパネルはメモリーが可能な残りのラップ数を記録し続けます（この例の場合は 12 回記録可能）。

この機能では、ラップタイムの表示のみが設定されています。ラップメモリー機能のデータ全てを表示するため、その他のデータ（最大 RPM、達した場合のリミッター）も同様に記録されます。



ラップメモリーデータの表示 (LAP Memory)

LAP 機能で記録されたデータを表示します。ラップタイム、最大 RPM、達した場合のリミッター

記録したタイムを表示するには、メニューに入り、“LAP MEM” ページを選択します。

メニューのこのページで、リセットボタン (14、図 5) を 3 秒間押すと、1 番目のラップタイムが表示されます。インストルメントパネルはラップ数とそのラップタイム、エンジン最高回転数が表示されます。

ボタン“▲”(1、図 10) を押すことにより、ラップナンバー 1 から順に 30 までのタイムを表示します。

記録されているタイムの表示中に、リセットボタン (14、図 5) を 3 秒間押し続けると、記録されているタイムが全てクリアされます。この場合、LAP 機能が作動していた場合は、自動的に非作動になります。

メモリーにデータが記録されていない場合、30 のラップタイムが“00.00.00”と表示されるクロノメーター、最大 rpm = 0、および最大瞬間速度 = 0 と共に表示されます。

走行中、記録したラップタイムを表示している間に、エンジンが 2 つの既存リミッターのうちの 1 つに達した、またはリミッターに達した場合、それぞれのランプも点灯します (9、図 3)。

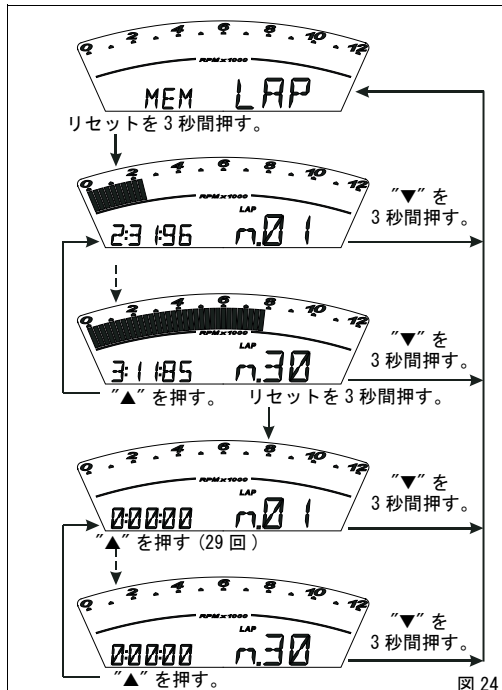


図 24

DDA コンパレーター

この機能では DDA (Ducati Data Analyzer) コンパレーター (80 ページ参照) の起動を行います: コンパレーターは車両の配線に接続されていなければなりません。

このコンパレーターを使用するには、メニューに入り、リセットボタン (14、図 5) を 3 秒押し、“DDA” コンパレーターを “On” にします。

機能が起動していることはメニューから出た状態でも画面上に DDA と小さく表示されることによって判ります。コンパレーターの rpm ソーターの START および STOP は左側スイッチにあるフラッシャーボタン (13、図 5) を介して行います。

DDA 機能使用中、突然インストルメントパネルが OFF になった場合 (キー OFF)、機能は自動的に OFF になります。



参考

Ducati Data Analyzer (DDA) 所有者は Online サービスを利用する事ができます (<http://dda.prosa.com>)。このサービスでは、DDA を正しく利用するために必要な情報などをデバイスから取得したデータ分析のためのソフトウェアまで、全て提供します。



警告

使用が終了したら DDA コンパレーターを主要配線から外します。

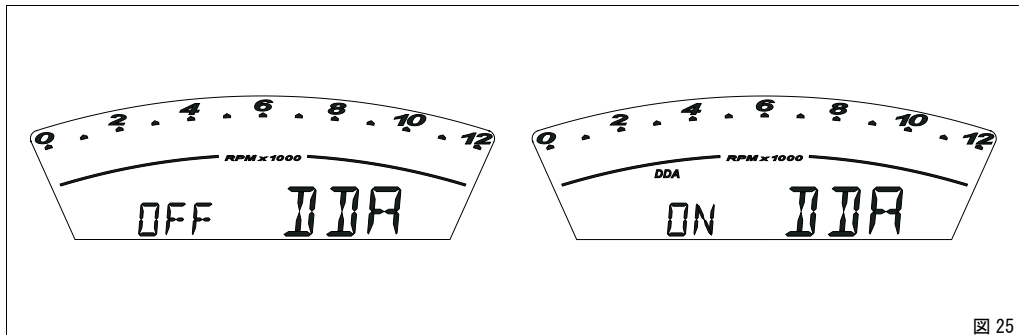


図 25

Erase DDA

この機能で DDA コンパレーター上に保存されたデータを消去することができます。コンパレーターは車両の配線に接続されていなければなりません。

データを消去するにはメニューに入り、“DDA クリア” ページを選択します。

リセットボタン (14、図 5) を 3 秒間押すと、DDA コンパレーターはデータを取得しなくなり、インストルメントパネルには 10 秒間 “WAIT...” と表示されます。10 秒後、“消去 OK” の文字が 2 秒間表示され、DDA コンパレーターのデータが消去されたことを確認します。

リセットボタン (14、図 5) を 3 秒間押し、DDA コンパレーターがデータを獲得した場合、コンパレーターのデータは消去されず、インストルメントパネル上には 2 秒間 “FAIL” と表示されます。

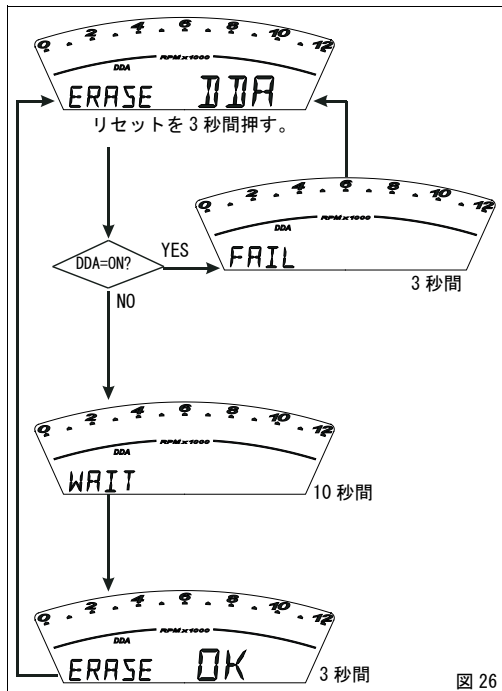


図 26

Ducati Traction Control システム / 起動機能

Ducati Traction Control システムの起動には DTC を押します。DTC

システムの目的



警告

DTC はライダーをアシストするシステムで、一般道走行時でもサーキット利用時でも使用できます。

アシストシステムとは、車両の運転がより確実に安心なものとなるためのメカニズムで、ライダーの注意による正しい行動を制限するものではなく、道路交通法の観点から言う偶発的に起こりうる間違いや、外的要因による間違いに対するアシストをするためのものです。

この安全システムは事故予防のためのシステムです。これらの機能は車両の操縦を助け、その管理を簡単で確実なものとしします。車両が走行している路面状況や道路交通法など各種規制範囲を超えた走行をするライダーを阻止するシステムではありません。

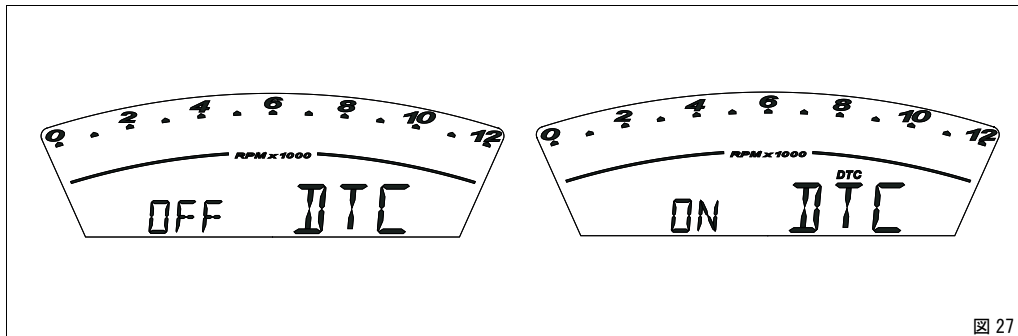


図 27

システムの起動

システムは安全に停車している状態で設定起動します。
トラクションコントロールユニットを操作するにはまずメニューに入り、リセットボタン (14、図 5) を 3 秒間押して“DTC”機能を“On”に設定します。3 秒後、DTC の接続を知らせる“DTC”の文字が表示されます。起動すると“DTC”の文字は、通常の表示だけでなくメニューページにも表示されます。



参考

システムの機能

システムは安全に停車している状態で作業をします。
DTC が起動される度にトラクションコントロールユニットは介入レベルを 8 に設定します。その後介入レベルは、“トラクションコントロール介入レベルの設定 (DTC SETUP)”機能から変更する事ができます。

トラクションコントロールユニットを解除するにはメニューに入り、リセットボタン (14、図 5) をもう一度 3 秒間押して“DTC”機能を“OFF”に設定します。3 秒後“DTC”と表示され、DTC が解除されたことを示します。

Traction Control 起動中に突然車両が KEY OFF になった場合、機能は解除されず、次に KEY ON にした際にもそのまま起動 (DTC On) した状態です。

突然バッテリーが中断された場合 (Batt-OFF) には機能は解除され、電源の確保および次の Key-On 時に DTC OFF の状態です。

メンテナンス調整

システムの機能を調整するには製造元がプログラムしたメンテナンスをよく守ってください。

DTC セッティング機能 (Ducati Traction Control)

この機能は DTC (Ducati Traction Control) コントロールユニットレベルのセッティングを可能にします。

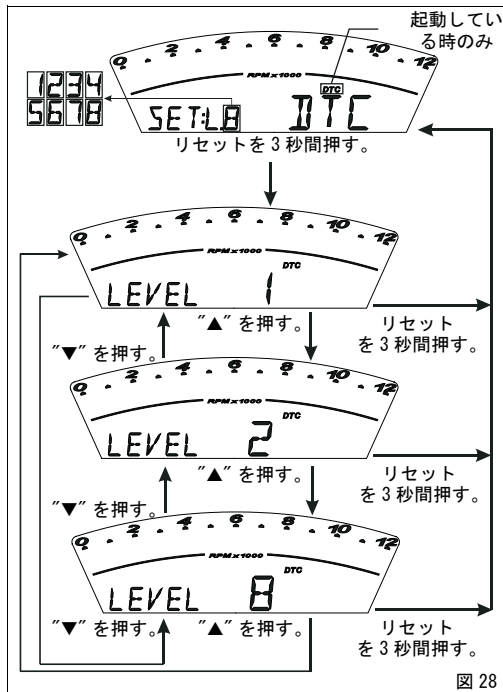
Traction Control コントロールユニットをセッティングするには、エンジン停止時にメニューに入り、“Setup DTC” ページを選択して下さい。このページは Traction Control (DTC ON) コントロールユニットが起動している時にメニューに表示されます。

ディスプレイ左側には設定されたトラクションコントロールの介入レベル (L. 1……L. 8) が表示されます。トラクションコントロールの介入レベルは 1 から 8 までであり、設定した数字に合わせて増加します (次章参照) メニューのこのページではリセット (14、図 5) を 3 秒間押すとセッティング機能に移ります。

1 ページ: “LEVEL 1” と表示されます。

このレベルを記録したい場合は、リセットボタン (14、図 5) を 3 秒間押します。インストルメントパネルは自動的にこのページを終了し、ディスプレイ中央に記録したレベルを記載した状態の通常表示に戻ります。

次のレベルに変更する場合は、ボタン (2、図 10) “▼” を押す必要があります。



2 ページ：“LEVEL 2”と表示されます。

このレベルを記録したい場合は、リセットボタン (14、図 5) を 3 秒間押します。インストルメントパネルは自動的にこのページを終了し、ディスプレイ右側に記録したレベルを記載した状態の通常表示に戻ります。

次のレベルに変更する場合は、ボタン (2、図 10) “▼” を押す必要があります。前のレベルに戻る場合は、ボタン (1、図 10) “▲” を押す必要があります。

3 ページ：“LEVEL 3”と表示されます。

このレベルを記録したい場合は、リセットボタン (14、図 5) を 3 秒間押します。インストルメントパネルは自動的にこのページを終了し、ディスプレイ右側に記録したレベルを記載した状態の通常表示に戻ります。

次のレベルに変更する場合は、ボタン (2、図 10) “▼” を押す必要があります。前のレベルに戻る場合は、ボタン (1、図 10) “▲” を押す必要があります。

4 ページ：“LEVEL 4”と表示されます。

このレベルを記録したい場合は、リセットボタン (14、図 5) を 3 秒間押します。インストルメントパネルは自動的にこのページを終了し、ディスプレイ右側に記録したレベルを記載した状態の通常表示に戻ります。

次のレベルに変更する場合は、ボタン (2、図 10) “▼” を押す必要があります。前のレベルに戻る場合は、ボタン (1、図 10) “▲” を押す必要があります。

5 ページ：“LEVEL 5”と表示されます。

このレベルを記録したい場合は、リセットボタン (14、図 5) を 3 秒間押します。インストルメントパネルは自動的にこのページを終了し、ディスプレイ右側に記録したレベルを記載した状態の通常表示に戻ります。

次のレベルに変更する場合は、ボタン (2、図 10) “▼” を押す必要があります。前のレベルに戻る場合は、ボタン (1、図 10) “▲” を押す必要があります。

6 ページ：“LEVEL 6”と表示されます。

このレベルを記録したい場合は、リセットボタン (14、図 5) を 3 秒間押します。インストルメントパネルは自動的にこのページを終了し、ディスプレイ右側に記録したレベルを記載した状態の通常表示に戻ります。

次のレベルに変更する場合は、ボタン (2、図 10) “▼” を押す必要があります。前のレベルに戻る場合は、ボタン (1、図 10) “▲” を押す必要があります。

7 ページ：“LEVEL 7”と表示されます。

このレベルを記録したい場合は、リセットボタン (14、図 5) を 3 秒間押します。インストルメントパネルは自動的にこのページを終了し、ディスプレイ右側に記録したレベルを記載した状態の通常表示に戻ります。

次のレベルに変更する場合は、ボタン (2、図 10) “▼” を押す必要があります。前のレベルに戻る場合は、ボタン (1、図 10) “▲” を押す必要があります。

8 ページ：“LEVEL 8”と表示されます。

このレベルを記録したい場合は、リセットボタン (14、図 5) を 3 秒間押します。インストルメントパネルは自動的にこのページを終了し、ディスプレイ右側に記録したレベルを記載した状態の通常表示に戻ります。

次のレベルに変更する場合は、ボタン (2、図 10) “▼” を押す必要があります。前のレベルに戻る場合は、ボタン (1、図 10) “▲” を押す必要があります。

DTC が起動している場合、セッティングされた設定は “SETUP DTC” ページから出ても、TOT、TRIP/TRIP Fuel (起動時)、時計および T-AIR 表示の後に表示されます。

セッティングされた設定は Key-Off 後も記録されます。

突然バッテリーが中断された場合 (Batt-OFF)、機能は解除され、電源の確保および次の Key-On 時に DTC OFF となります。

レベルの選択に際しての注意事項



警告

あなたの車両の DTC システムの 8 レベル調整は、車両に搭載されているタイヤの種類 (メーカー、モデル、サイズなどの特徴) によって決定されています。

標準装備のタイヤと異なったサイズのタイヤを使用する場合、システム機能の特徴を変更することができます。

標準装備のタイヤとモデルまたは / およびメーカーが違うが、サイズクラスが同じ (リア = 180/60-17、フロント = 120/70-17) など、少し違うだけのタイヤを使用する場合、システムの機能を最適化するには、選択可能なレベルのうち、より適切なレベルを選択することでカバーできるでしょう。

サイズクラスの違うタイヤ、またはサイズが少しだけ違うタイヤを使用する場合、システム機能は設定可能な 8 レベルのどれでも納得するものにはならないでしょう。この場合、システムは解除する事をお勧めします。

レベル 8 を選択すると、DTC コントロールユニットはリアタイヤのわずかなスピンにも対応します。レベル 8 とレベル 1 の間には、その他に 6 つのレベルが存在します。DTC の介入度はレベル 8 から 1 に向かい減少します。

レベル 1、2、3 では DTC コントロールユニットはリアタイヤがスピンおよびスリップを許可します。これらのレベルはサーキット内での使用および熟練者の使用時に設定する事を推奨します。

正しいレベルの選択は、3 つの観点から行います：

- 1) 安定性 (タイヤのタイプ、磨耗状態、アスファルトの種類、気候など)

- 2) レイアウト / 行程 (同じような、または全く異なったスピードでのカーブ)
- 3) ライディングスタイル (より“丸く”または“鋭く”)

定着の状態からのレベル選択

正しいレベルの選択はレイアウト / 行程中の定着状況に関連します (後述のサーキットおよび一般道での使用時のアドバイス参照)。

レイアウトタイプからのレベル選択

レイアウト / 行程に均等な速度で走行するカーブがある場合、カーブごとに満足できる介入レベルを見つけることはとても簡単です。その反対に、よりゆるいカーブがある場合、より譲歩した介入レベルが必要です (ゆるいカーブ時、DTC はその他のカーブよりもより介入しようとします)。

ライディングスタイルからのレベル選択

DTC は“丸く”操縦する人にはバイクを倒し、“鋭く”操縦する人には車体を上げて、カーブからより早く抜けれるよう介入します。

サーキットでの使用時のアドバイス

タイヤを温める間の約2周は、システムとの接触を良くするため、レベル5に設定して走行することをお勧めします。その後、レベルを4、3、とDTCの最適なレベルに達するまで調整します (タイヤを温めるため、ひとつのレベルごとに2周する)。

1つか2つのゆるいカーブ以外は納得のできるレベルの場合、違うレベルに設定しようと調整するよりは、ゆるいカーブでのライディングスタイルを少し“鋭く”し、カーブ出口での車体角度をより早く上げて走行するとよいでしょう。

一般道での使用時のアドバイス

乾いた路面: DTCを起動します、レベル6を選択し、好みのスタイルで運転します。DTCが介入しすぎると感じる場合は、レベルを5、4と順番に落とし、快適なレベルに達するまで調整して下さい。

定着状況および / または行程の種類および / またはライディングスタイルを変更し、設定レベルでは納得がいかない場合は調整します (例: レベル5ではDTCが介入しすぎると感じる場合はレベル4に、レベル5では全くDTCの介入がないと感じる場合はレベル6に)。

濡れた路面: レベル7及び8はぬれた路面で車体を使用することを念頭にしています。レベル8を選択し、好みのスタイルで運転することが推奨します。DTCの干渉が大きすぎると感じる場合には、レベル7を選択してください。レベル6、5、...、1は乾いた路面で車体を使用することを念頭にしています。

クイックシフトの起動 / 停止機能 (DQS ON/OFF)

この機能は DQS- ドゥカティクイックシフトを停止（そして再起動）させることができます。



参考

Quick Shift システムは、Performance シフトキット、部品番号 96524412A が車体に取り付けられている場合のみ機能します。



警告

Performance シフトキット、部品番号 96524412A の取り付けは、Ducati オフィシャルディーラーまたはサービスセンターにご依頼下さい。

“DQS” この機能を停止するには、メニューに入り、ボタン (14、図 5) を 3 秒間押しして “DQS” 機能を “OFF” にします。

二通りの方法で機能を再起動させることができます。

- 1) エンジンを停止し (Key-Off)、その後 Key-On にすると “DQS” が再度起動 (On) します。
- 2) “DQS” ページのメニューに再度入り、ボタン (14、図 5) を 3 秒間押しして機能を “On” にします。

バッテリーが中断された場合 (Batt-OFF)、電源の確保および次の Key-On 時に自動的に停止します (DQS OFF)。

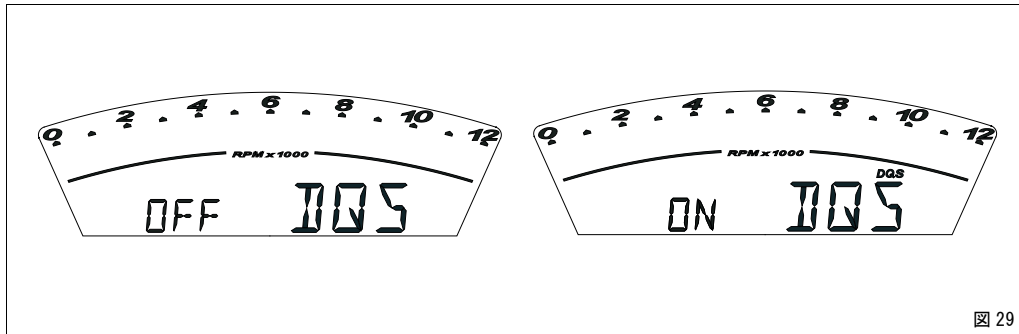


図 29

時計の調整

この機能では時刻を設定します。

時計を調整するには、メニューに入り、“TIME Set” ページを選択します。

このページに入った状態でリセットボタン（14、図 5）を 3 秒押すと、調整機能に入ります。

この機能に入ると最初に“AM”の表示が点滅します。ボタン“▲”（1、図 10）を押すと、PM が点滅表示します。ボタン“▲”（1、図 10）を押すと、ひとつ前のステップに戻ります（時間が 00:00 の場合は、AM から PM へ移ると 12:00 が表示されます）。

ボタン“▼”（2、図 10）を押すと、時間が点滅し始め、時間の設定に入ります。ボタン（1、図 10）“▲”を押すたびに、1 時間進みます。ボタン（図 10）“▲”を押し続けると、1 秒につき 1 時間ずつ進みます（ボタンを押し続けている間、時間表示は点滅しません）。

ボタン“▼”（2、図 10）を押すと、分が点滅し始め、分の設定に入ります。ボタン（1、図 10）“▲”を押すたびに、1 分進みます。ボタン（1、図 10）“▲”を押し続けると、1 秒につき 1 分ずつ進みます。ボタン（1、図 10）“▲”を 5 秒以上押し続けると、100ms につき 1 分の割合で数字が増します（ボタン（1、図 10）“▲”を押し続けている間、数字は点滅しません）。

ボタン（1、図 10）“▲”を押すと時間設定機能が終了し、設定した時間が表示されます。

リセットを 3 秒間押す。

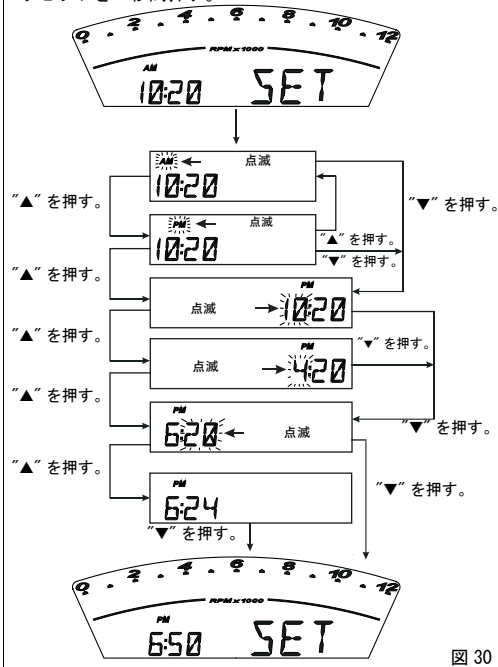


図 30

インストルメントパネルの診断

重要







インストルメントパネルはキーオフから 60 秒後にシステムの診断を行います。

車両に異常部分が見られた場合は、表示されます。
エラーが複数ある場合は 3 秒ごとに表示が変わります。
その後、エラーリストが表示されます。





警告



ひとつでもエラーが表示された場合には、必ず Ducati ディーラーまたはサービスセンターにご連絡下さい。

ランプ	エラーメッセージ	エラー
	TPS	1.1 スロットルポジションセンサーエラー
	TPS	1.2 スロットルポジションセンサーエラー
	PRES	2.1 プレッシャーセンサーエラー
	PRES	2.2 プレッシャーセンサーエラー
	T WAT	3.1 エンジンクーラント温度センサーエラー
	T WAT	3.2 エンジンクーラント温度センサーエラー

ランプ	エラーメッセージ	エラー
	T AIR	4.1 外気温センサーエラー
	T AIR	4.2 外気温センサーエラー
	BATT	5.1 バッテリーテンションエラー
	BATT	5.2 バッテリーテンションエラー
	LAMB	6.1 ラムダセンサーエラー
	LAMB	6.2 ラムダセンサー 2 エラー
	FUEL	7.1 リザーブエラー
	FUEL	7.2 リザーブエラー
	DTC	8.0 トラクションコントロールコントロールユニットエラー
	COIL	10.1 ホリゾンタルシリンダーコイルエラー
	COIL	10.2 ホリゾンタルシリンダーコイルエラー
	COIL	11.1 パーチカルシリンダーコイルエラー

ランプ	エラーメッセージ	エラー
	COIL	11.2 パーチカルシリンダーコイルエラー
	INJE	12.1 ホリゾンタルシリンダーインジェクターエラー
	INJE	12.2 ホリゾンタルシリンダーインジェクターエラー
	INJE	13.1 パーチカルシリンダーインジェクターエラー
	INJE	13.2 パーチカルシリンダーインジェクターエラー
	PUMP	16.0 フューエルポンブリレーエラー
	FAN	18.1 ファンリレーエラー
	FAN	18.2 ファンリレーエラー
	STRT	19.1 スターターコンタクターエラー
	STRT	19.2 スターターコンタクターエラー
	STEP	21.1 ステッパーマーターエラー
	STEP	21.2 ステッパーマーターエラー

ランプ	エラーメッセージ	エラー
	STEP	21.3 ステッパモーターエラー
	LAMB	22.1 ラムダヒーターエラー
	LAMB	22.2 ラムダヒーターエラー
	EXVL	23.1 エキゾーストバルブモーターエラー
	EXVL	23.2 エキゾーストバルブモーターエラー
	EXVL	23.3 エキゾーストバルブモーターエラー
	EXVL	23.4 エキゾーストバルブモーターエラー
	ECU	30.0 エンジンコントロールユニットエラー
	PK UP	34.0 ピックアップセンサーエラー
	SPEED	36.0 スピードセンサーエラー
	IMMO	37.0 イモビライザーエラー
	IMMO	37.1 イモビライザーエラー

ランプ	エラーメッセージ	エラー
	IMMO	37.5 イモビライザーエラー
	CAN	38.0 CAN ラインエラー

ターンインジケータの自動リターン機能

2つのうち、どちらかのターンインジケータを点けた後リセットボタン（14、図5）で解除する事ができます。リセットしなかった場合、1Km（または0.6マイル）走行後、インジケータは自動的に解除されます。

ヘッドランプ“段階的”点灯機能

Key-On時、ロービーム（LO）は3秒間かけて“段階的”に点灯します。

消灯は瞬時に実施されます。

ヘッドランプ“インテリジェンス”消灯機能

ヘッドランプが自動的にOFFとなり、バッテリーの消費量を抑えます。次の3つの場合に、この機能が作動します：

- 第1は、キーをOFFからONにしたのにエンジンが始動しなかった場合、60秒後にヘッドランプはOFFになり、エンジンを再始動した時のみにONになります。
- 第2は、ヘッドランプを点灯した状態で車両を使用した後、右側スイッチにあるRUN-STOPボタンでエンジンを止めた時。
この場合、エンジン停止60秒後、ヘッドランプは消灯し、エンジンを再始動した時に点灯します。
- 第3のケースは、エンジン始動中にヘッドランプを消灯し、エンジン始動直後に点灯した時。

イモビライザーシステム

この車両には電子制御でエンジンをブロックする盗難防止システム（イモビライザー）が搭載されています。イモビライザーは、毎回エンジンを停止する度に自動的に作動します。

各キーのボディにはトランスポンダーが内蔵されています。トランスポンダーからの信号は、イグニッションスイッチ部に組み込まれたアンテナを介してコントロールユニットに送られます。この信号はパスワードの役割を果たし、イグニッションキーがスイッチに差し込まれる度に、毎回変更され、CPUが“パスワード”によってキーを承認した時のみエンジンが始動します。

キー（図 31）

車両には、以下のキーが付属しています：

－ キー B（黒）2 本

キーには“イモビライザーシステムコード”が内蔵されています。

参考

Ducati のディーラーが作業を行う際に、コードカードが必要となる場合があります。

黒いキー（B）は通常のイグニッションキーで、以下の場合に使用されます：

- － エンジンの始動
- － フューエルプラグの開閉
- － シートロックの解除

参考

2本のキーには、キーの識別番号の書かれたプレート(1)が付いています。

警告

2本のキーは個別に保管し、通常は2本の黒いキーのうち、1本のみを使用するようにしてください。

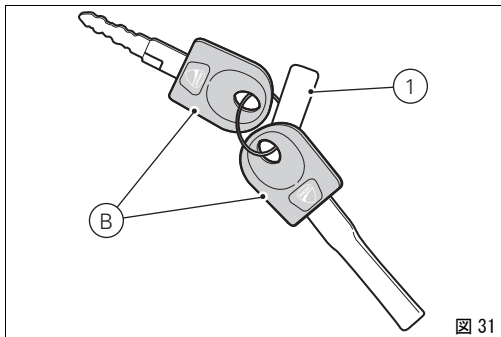


図 31

コードカード

キーと併せてコードカード（図 32）が付属しています。カードには、キー ON 後にエンジンブロックが作動した場合に使用する電子コード（A、図 33）が記載されています。



警告

コードカードは安全な場所に保管して下さい。イモビライザーシステムに問題が生じ、琥珀色の“車両/エンジン診断 -EOBD”ランプ（8、図 3）の点灯で表示され、エンジンブロック状態になった場合に、エンジンブロックを解除する為、ライダーは常にコードカード上に記載されている電子コードを携帯することをお勧めします。この作業はコードカードに記載されている電子コード（エレクトロニックコード）がなければ出来ません。



警告

コードカードはディーラーでキーの再プログラミングまたはキーの交換をする際にも必要です。

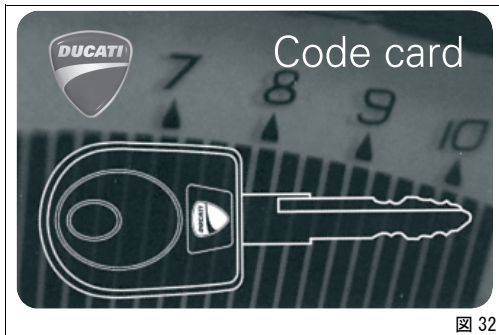


図 32

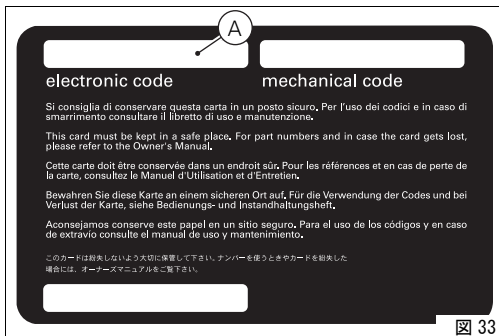


図 33

イモビライザーの解除作業

“イモビライザーブロック”時には、インストールパネルから“イモビライザーを解除”することができます。メニューの“CODE”ページに入ります。



参考

このメニューは最低1つのイモビライザーエラーが検知されていないと使用できません。

メニューのこのページでは、初期コードとして“00000”が必ず表示されます。この段階で、リセットボタン(14、図5)を3秒間押しすと、コードカードに記載されている電子コードの入力作業に入ります。

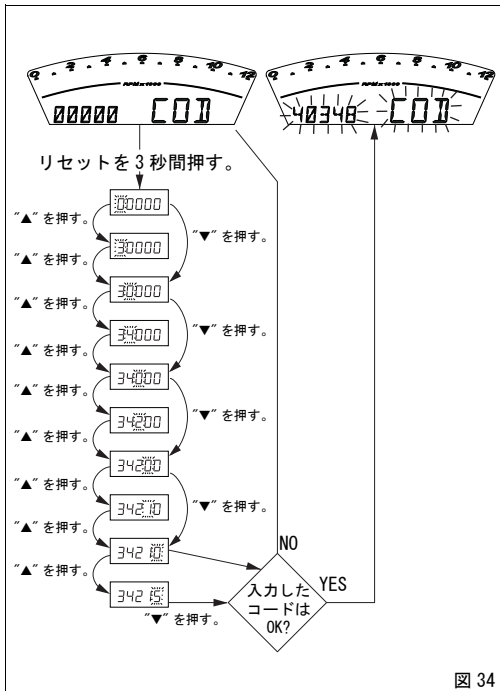


図 34

コードの入力：

この作業を選択すると、一番左の桁の数字が点滅し始めます。

ボタン (1、図 10)：

ボタン (1、図 10) “▲” を押すたび、1 秒ごとに数字が増えます。

ボタン “▼” (2、図 10) を押すと、2 桁目の数字が点滅し始めて設定に入ります。ボタン (1、図 10) “▲” を押すたび、1 秒ごとに数字が増えます。

ボタン “▼” (2、図 10) を押すと、3 桁目の数字が点滅し始めて設定に入ります。ボタン (1、図 10) “▲” を押すたび、1 秒ごとに数字が増えます。

ボタン “▼” (2、図 10) を押すと、4 桁目の数字が点滅し始めて設定に入ります。ボタン (1、図 10) “▲” を押すたび、1 秒ごとに数字が増えます。

ボタン “▼” (2、図 10) を押すと、5 桁目の数字が点滅し始めて設定に入ります。ボタン (1、図 10) “▲” を押すたび、1 秒ごとに数字が増えます。

ボタン (2、図 10) “▼” を押すと、コードを決定します。

この時点で、コードが正しく入力されている場合は、“code” の文字と、入力したコードが同時に 4 秒間点滅します。“車両 / エンジン診断 - E0BD” 警告灯 (8、図 3) が消灯します。続いてインストルメントパネルは自動的にメニューを終了し、“一時的に” エンジン始動を可能にします。

インストルメントパネルにエラーが残ったままの場合は、次回のキーオン時にも依然としてエンジンブロック状態になります。

コードが正しく入力されなかった場合、インストルメントパネルは自動的に“CODE”メニューに戻り“00000”を表示します。

作業

イグニッションキーを ON から OFF の位置に回す度に、システムはエンジンブロックを作動します。エンジンの始動には、キーを OFF から ON にして下さい：

1) コードが承認されると、システムはエンジンブロックを解除します。START ボタン (2、図 41) を押すと、エンジンが始動します。

2) 車両 / エンジン診断ランプ (8、図 3) が点灯した時点で、ボタン“▼”(2、図 10) を押すと“IMMO”と表示され、コードが承認されなかった事を示します。キーを OFF に戻し、再度 ON に回します。それでもエンジンが始動しない場合は、付属している他の黒キーを使い、もう一度試して下さい。この方法でもまだブロックが解除されない場合は、Ducati サービスセンターに御連絡下さい。



警告

キーに強い衝撃を与えると内蔵された電子部品が破損しますので注意してください。

作業中は常に同じキーのみを使用してください。違うキーを使用すると、システムのコード承認の妨げになる場合があります。

キーの複製

追加のキーが必要な場合は、お持ちのキー全てとコードカードを持って Ducati サービスセンターにご依頼下さい。Ducati サービスセンターは新しいキー、およびお手持ちのキーを再プログラミングします。

Ducati アシスタントサービスは、お客様が車両のオーナーである証明の提示を求めますので、必要書類をご持参下さい。

この作業時に再メモリーされなかったキーのメモリーは削除されて無効となるため、エンジンを始動する為に使用することはできません。



参考

オーナー変更の際、全てのキーとコードカードを新しいオーナーに譲り渡されなければなりません。

運転時に必要なコマンド



警告

この章では車両を運転する上で必要な全てのコマンド機能と配置を詳しく説明しています。コマンドを使用する前によく読んで下さい。

コマンド類の配置 (図 35)

- 1) インストルメントパネル
- 2) イグニッションスイッチ / ステアリングロック
- 3) 左側スイッチ
- 4) クラッチコントロールレバー
- 5) リアブレーキペダル
- 6) 右側スイッチ
- 7) スロットルグリップ
- 8) フロントブレーキレバー
- 9) ギアチェンジペダル

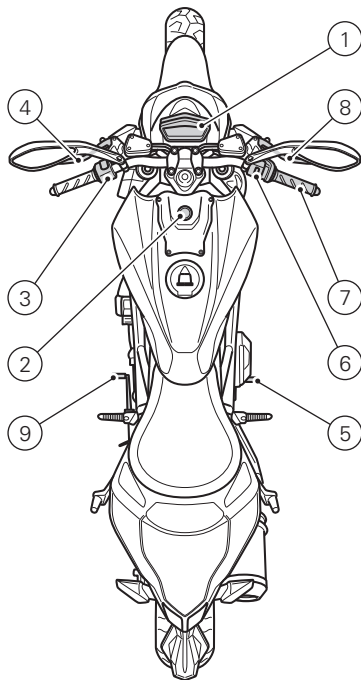


図 35

イグニッションスイッチ / ステアリングロック (図 36)

燃料タンクの前にあり、4つのポジションがあります：

- A) ○ : エンジンおよびランプが機能
- B) ☒ : エンジンおよびランプが解除
- C) Ⓜ : ステアリングロック状態
- D) Ⓜ : ポジションライトとステアリングロック。



参考

キーを最後の2つのポジションにするには、キーを押してから回して下さい。(B)、(C)、(D)の位置ではキーを引き抜くことができます。

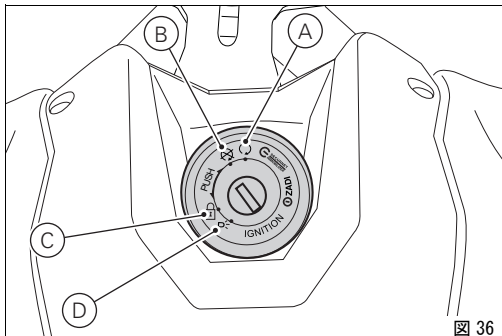
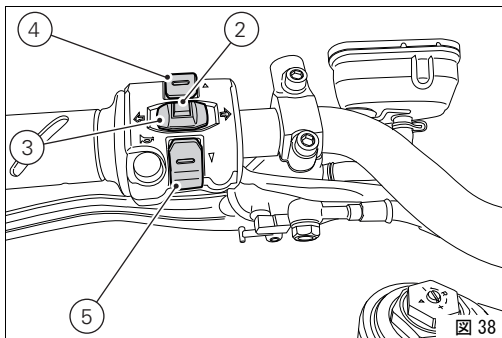
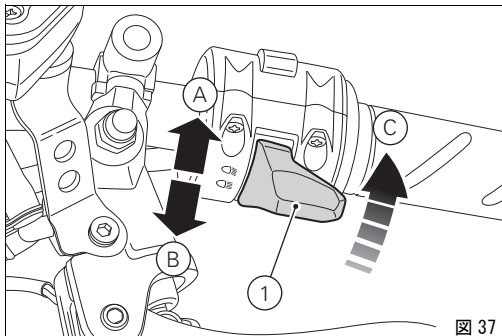


図 36

左側スイッチ（図 37 および図 38）

- 1) ランプ切り替えスイッチ。2つのポジションがあります：
ポジション = ロービーム ON (A)
ポジション = ハイビーム ON (B)
ボタン = フラッシャー (FLASH) およびインスト
ルメントパネルコントロール (C)
- 2) ボタン = ターンインジケータには3つのポジ
ションがあります：
中央 = OFF
 = 左折
 = 右折
ターンインジケータを消すには中央部に戻したボタ
ンを押します。
- 3) ボタン = 警告ホーン
- 4) インストルメントパネルポジション“▲”コントロール
ボタン
- 5) インストルメントパネルポジション“▼”コントロール
ボタン



クラッチコントロールレバー

レバー (1) でクラッチの接続を操作します。この機種にはアジャスター (2) がついており、レバーとハンドルバー上のハンドル間の調整が可能です。レバーの間隔はアジャスター (2) の 10 クリックで調整できます。時計回りに回すとレバーはスロットルグリップから離れます。アジャスターを反時計回りに回すと近づきます。レバー (1) を引くと、エンジンの回転がトランスミッションおよびホイールモーターに伝わらなくなります。クラッチの適切な操作は、スムーズなライディング、特に発進時に重要です。

警告

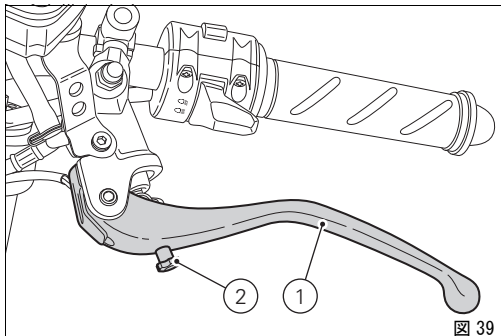
クラッチ及びブレーキレバーの調整は、停車時に行います。

重要

クラッチレバーを正しく操作することで、トランスミッションの損傷を避け、車両の寿命を延ばすことができます。

参考

サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態ですらエンジンが始動させることができます。また、ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いて下さい (この場合サイドスタンドは下ろしません)。



右側スイッチ (図 40 と 図 41)

1) ENGINE STOP 2つのポジション：
ポジション "O" (RUN) = エンジン作動 (A、図 41)
ポジション "OFF" (OFF) = エンジンの停止 (B、図 41)



警告

このスイッチは、緊急時等にエンジンを直ちに停止させなければならない時に使用するためのものです。エンジン停止後は、再始動ができるようにスイッチを "O" (A、図 41) ポジションに戻して下さい。



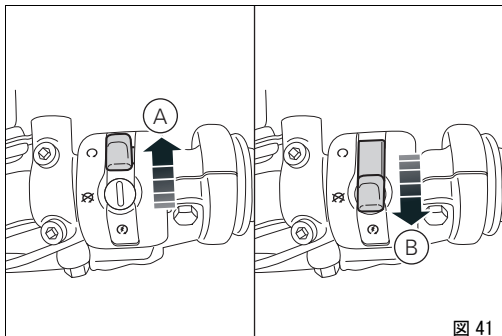
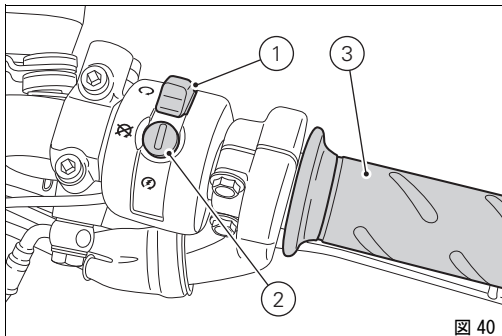
重要

ランプを点灯して走行した後、スイッチ (1) でエンジンを停機し、イグニッションキーをONのままにすると、ランプは点灯し続け、バッテリーを使い切ることができます。

2) Oのボタン=エンジン始動

スロットルグリップ (図 40)

右ハンドルバーのスロットルグリップ (3、図 40) は、スロットルボディの開閉を制御します。グリップを緩めると、自動的に元の位置 (アイドリング状態) に戻ります。



フロントブレーキレバー（図 42）

レバー (1) をスロットルグリップの方向へ引くと、フロントブレーキがかかります。このレバーは油圧で作動するため、軽く握るだけで作動します。

コントロールレバー (1) にはつまみ (2) が付いており、レバーとグリップとの間隔が調整できるようになっています。レバーの間隔はアジャスター (2) の 10 クリックで調整できます。時計回りに回すとレバーはスロットルグリップから離れます。アジャスターを反時計回りに回すと近づきます。

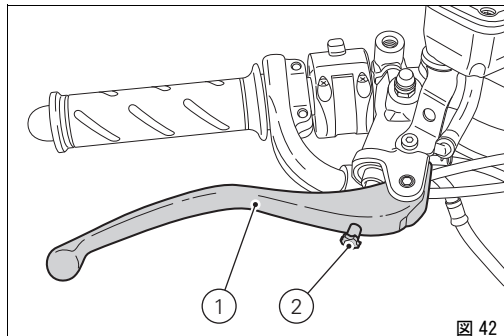


図 42

リアブレーキコントロールペダル (図 43)
ペダル (1) を下に踏むことで、リアブレーキが機能します。
システムは油圧式で作動します。

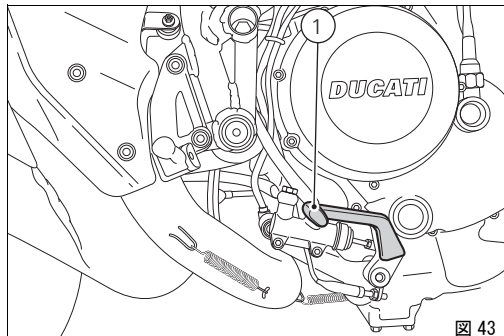


図 43

ギアチェンジコントロールペダル (図 44)
ギアチェンジペダルは、中央のニュートラルのポジション N に自動的に戻ります。ニュートラルポジションであることはインストルメントパネル上の N ランプ (3、図 3) で表示されます。
ペダルは以下のように動かせます：
下へ＝シフトダウンおよび 1 速へのチェンジは、ペダルを下に押します。この時、インストルメントパネルの N ランプが消えます。
上へ＝ペダルを上へ上げることで、2 速から順次 3、4、5、6 速へとチェンジします。
一回の操作が一速分のチェンジに相当します。

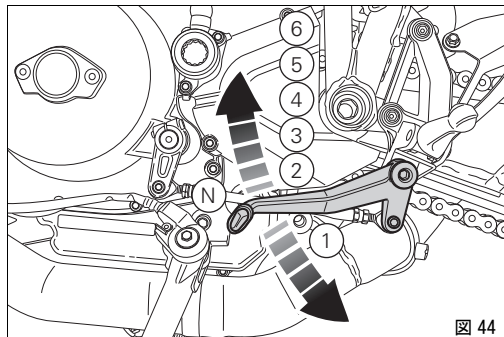


図 44

ギアチェンジペダルおよびリアブレーキペダルの位置調整 (図 45、図 46)

ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルのポジションは、それぞれのライダーのライディングスタイルとフットレストの位置に合わせて調整することができます。

ギアチェンジペダルのポジションは次の手順で調整します：

ロッド (1) を固定しながら、ナット (2) と (3) を緩めます。



参考

ナット (2) は、逆ネジになっています。

ギアチェンジペダルを好みの位置に定めながら、レンチでロッド (1) の六角部分を回します。

ロッドに対して両ロックナットを締め付けます。

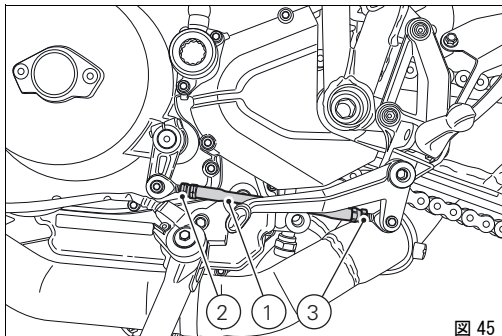


図 45

リアブレーキコントロールペダルの位置調整は以下の手順で行います：

ナット (4) を緩めます。

ペダルが好みの位置になるまで、アジャスター (5) を回します。

ロックナット (4) を 2.3 Nm のトルクで締め付けます。

ペダルを手で押しながら、ブレーキがかかり始めるまでに約 1.5 ~ 2 mm の遊びがあるかを確認します。

遊びが上記でない場合、マスターシリンダーコントロールロッドの長さを次の手順で調整します：

ロッドの上にあるナット (6) を緩めます。

フォーク (7) のロッドの遊びを増したい場合は締めこみ、逆に減らしたい場合は緩めます。

ロックナット (6) を 7.5 Nm のトルクで締め付け、再度遊びを点検します。

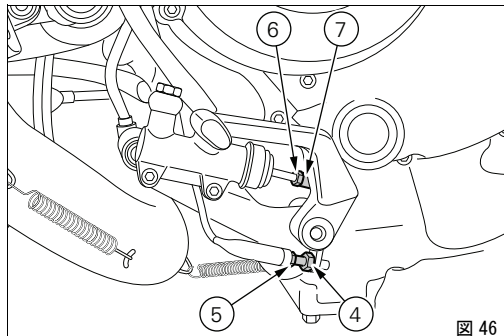


図 46

主要構成部品 / 装備

車両上の配置 (図 47)

- 1) フィラープラグ
- 2) シートロック
- 3) サイドスタンド
- 4) 触媒システム
- 5) リアビューミラー
- 6) フロントフォークアジャスター
- 7) リアショックアブソーバーアジャスター
- 8) エキゾーストサイレンサー (76 ページ、“注意事項”参照)

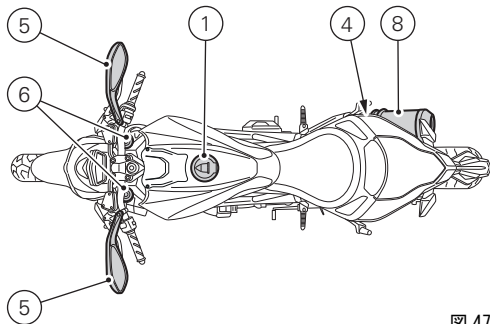
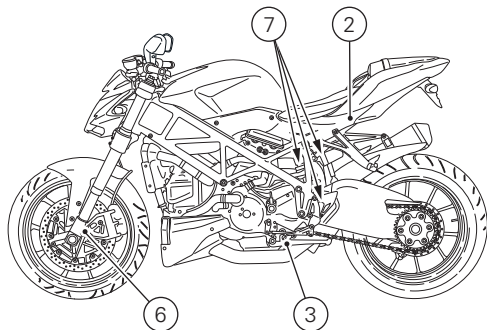


図 47

フューエルプラグ（図 48）

開け方

プラグの保護カバー（1）を持ち上げ、イグニッションキーを差し込み、時計回りに1/4回転してロックを解除すれば、プラグを開けることができます。プラグを持ち上げて下さい。

閉じ方

キーの差し込まれたプラグを押して閉じ、キーを反時計回りに回して、元の位置に戻してから抜き取ります。保護カバー（1）を閉じます。



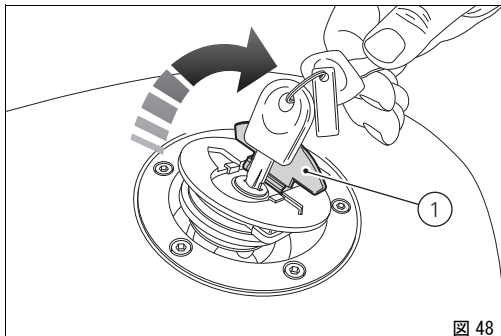
参考

プラグはキーが差し込まれていないと閉まりません。



警告

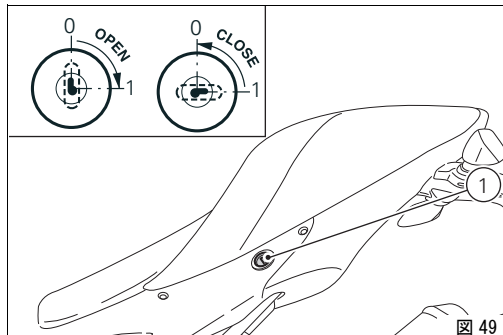
燃料補給（78 ページ参照）後は毎回、プラグが正しい位置で確実に閉まっていることを確かめて下さい。



シートロック（図 49 および図 50）

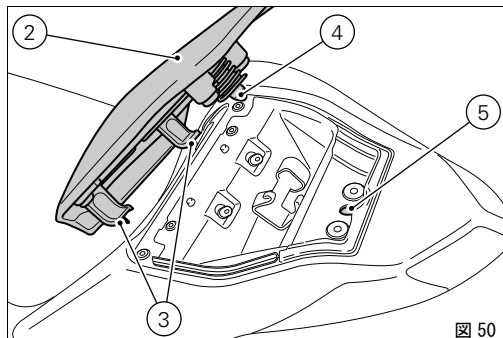
開け方

鍵穴（1、図 49）にキーを差し込み、クリックと言う音が聞こえるまで時計回りに回します。
シートを前方に押し、持ち上げながら前方ホルダーから引き抜きます。



閉じ方

テールガードの所定の部分にシートのフック（3）を挿入し、フレームチューブ方向下部に押し下げます。
ピン（4）がラッチ（5）にカチッとハマるまでパッセンジャーシート後部を押します。
正しくロックされているか確認するため、パッセンジャーシートを少し上に引き上げます。



サイドスタンド（図 51）

重要

サイドスタンドを使用する前に、地面が適しているか、平らであるかを確認して下さい。

柔らかい地面、砂利、日光で柔らかくなったアスファルト等にパーキングすると、車両転倒の原因となります。

傾斜面に停車する場合は、常にリアホイールが斜面の低い側になるようにして下さい。

サイドスタンドを使用するには、ハンドルバーを両手で握み、車体を支えながら、スタンドのフック (1) を足でいっばいに押します。次に、スタンドがしっかりと路面に着くまで、車体を徐々に傾けていきます。

警告

サイドスタンド使用時には、車両にまたがらないで下さい。

サイドスタンドを元の位置（水平位置）に戻すには、車両を右側に傾けながら、足でスタンドのアーム (1) を持ち上げます。

参考

定期的スタンド（内側と外側 2 つの Springs の状態）と安全センサー (2) の作動を点検することをお勧めします。

参考

スタンドを降ろし、トランスミッションがニュートラルの状態にエンジンを始動させることができます。ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いて下さい（この際サイドスタンドは降ろしません）。

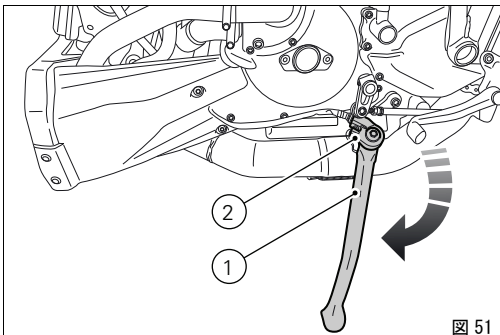


図 51

フロントフォークアジャスターの調整

フロントフォークには、リバウンド/コンプレッション/スプリングプリロードダンピングアジャスターが装備されています。

この調整はアウターアジャスターにて行います：

- 1) 油圧ブレーキのリバウンドダンピング調整 (図 52)；
- 2) インナースプリングプリロード調整 (図 52)；
- 3) 油圧ブレーキのコンプレッションダンピング調整 (図 53)；

サイドスタンドを使い、安定した場所に停車します。リバウンドダンピングを調整する際は、適切なレンチを使用し、各フォークレッグ端部にあるアジャスター (1) を回します。

コンプレッション油圧ブレーキを調節するには、ドライバー (-) で、各フォークの上部に配置されているアジャスター (3) を回します。

調整スクリュー (1 と 3) を回すと、カチッと言う音がします。一回の音がダンピング 1 段に相当します。アジャスターをいっばいに締め込むと "0" 位置になり、ダンピングが最強にセットされます。このポジションから反時計回りに回し、ダンピング値を計ります。

各フォーク内部のスプリングプリロードを変更するには、全開のポジションから、六角アジャスターナット (2、図 52) を 22 mm の六角レンチで回します (時計周りで)。基準の位置 (A、図 52) から時計回りに一回転すると、スプリングプレロード 1mm に相当し、最大値は 15mm で 3 回転に相当します。

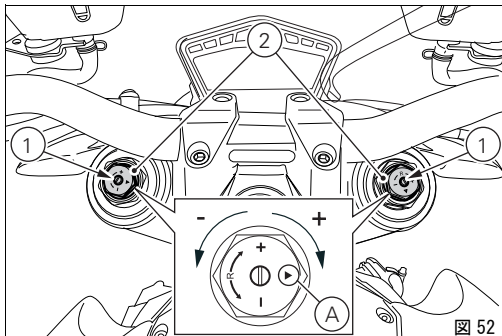


図 52

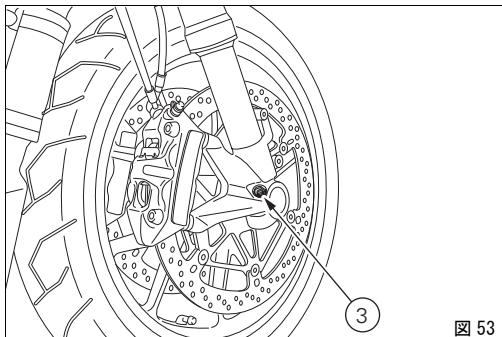


図 53

標準設定は以下のようになります：

コンプレッション：

1.5 回転（完全閉鎖から）

リバウンド：

2.5 回転（完全閉鎖から）

スプリングプリロード 2 mm 完全に開いた状態から時計回

りに 2 回転

実際のプリロード 2 mm に相当



重要

両フォークは同じ設定にして下さい。

車体の様々な使用によるサスペンションの調整については
69 ページの表を参照してください。

リアショックアブソーバーアジャスターの調整 (図 54)

リアショックアブソーバーには、積載重量に合わせて車体の平衡状態を調整できるようにアウターアジャスターを装備しています。

アジャスター (1) は、ショックアブソーバーのスイングアームへの固定位置下部、左側にあり、リバウンド (リターン) の時点で油圧ブレーキを調整します。

アジャスター (2) は、フレームのリザーバータンクに配置され、油圧ブレーキのコンプレッションダンピングの調整に使用します。

時計回りの方向にアジャスター (1 及び 2) を回すとダンピングが強くなり、反対方向に回すと弱くなります。

標準設定：

アジャスターが完全に閉じた状態から時計回りに：

アジャスター (1) を 9 クリック (完全閉鎖から)

アジャスター (2) を 1.5 クリック (完全閉鎖から)

スプリングプリロード：23 mm

アブソーバー上部にある 2 つのリングナット (3) は、アウタースプリングプリロードの調整に使用します。スプリングプリロードを変更するには、上部固定リングナットを緩めます。下部リングナットを締める、または緩めることでプリロードの強弱を調整します。

希望の強さに調整した後は、上部リングナットをしっかりと締め付けてください。

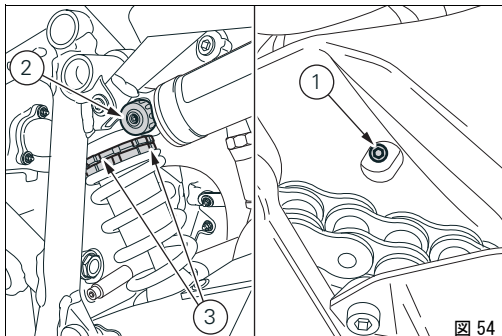


図 54



警告

アジャスターのリングナットを回すにはサイズに合ったレンチを使用してください。調整中にレンチがナットの溝から外れると、手を車体に強くぶつけ、怪我をする恐れがあるのでよく注意して下さい。



警告

ショックアブソーバーには高圧のガスが充填されています。未経験者による分解作業は重大な損傷の原因となります。

パッセンジャー載せて走行する際には、スプリングプリロードを最大に設定すると、路面からの影響を受けにくくなり、走行安定性が増します。この場合には、リバウンドダンピングの再調整が必要になることがあります。

以下に車体の様々な使用のためのサスペンションの調整を表に示しています。

	リバウンド	コンプレッション	スプリングプリロード	
フロントフォーク	完全閉鎖から 2.5 回転	完全閉鎖から 1.5 回転	完全に開いた状態から 2 回転	ストリートでの使用するためのセットアップ “comfort”
リアショックアブソーバー	完全閉鎖から 9 回転	完全閉鎖から 1.5 回転	23 mm	
フロントフォーク	完全閉鎖から 2.5 回転	完全閉鎖から 1/2 回転	完全に開いた状態から 2 回転	ストリートでの使用するためのセットアップ “sport”
リアショックアブソーバー	完全閉鎖から 5 回転	完全閉鎖から 1/4 回転	23 mm	

運転のしかた

全ての機械部分を互いに馴染ませるため、また、エンジンの主要部分の寿命に悪影響が出ないように、急な加速や、特に上り坂での長時間にわたる高速回転は避けて下さい。定期的にチェーンを点検し、必要であれば潤滑し、調整して下さい。

慣らし運転の方法

慣らし運転時の最高速度（図 55）

慣らし運転期間中の最高許容回転数：

- 1) 1000 km まで
- 2) 1000 ~ 2500 km まで

1000 km まで

最初の 1000 km まではタコメーターに注意し、5,500 ~ 6,000 回転 (rpm) を超えてはいけません。最初の数時間は、規定回転数の範囲内でエンジンの負荷と回転数を色々変えることをお勧めします。エンジン、ブレーキ、サスペンションのより効果的な慣らしには、カーブが多く起伏に富んだ場所を走行することが理想的です。

最初の 100 km は、ブレーキディスクに対してパッドの摩擦材を適切に慣らすために、優しくブレーキをかけ、急なブレーキや長い間ブレーキをかけることは避けて下さい。

1000 ~ 2500 km まで

この間、エンジンからよりパワーを引き出す事は可能ですが、下記の回転数を決して超えないようにして下さい：

7,000 rpm

重要

慣らし運転期間は、当マニュアルで指定された点検、整備を必ず受けて下さい。順守されなかった結果、エンジンの損傷、および寿命の短縮などについて、Ducati モーターホールディング社はいかなる責任も負いません。

慣らし運転の方法を守ることによってエンジンの寿命を延ばし、調整、オーバーホールの回数を抑えることができます。

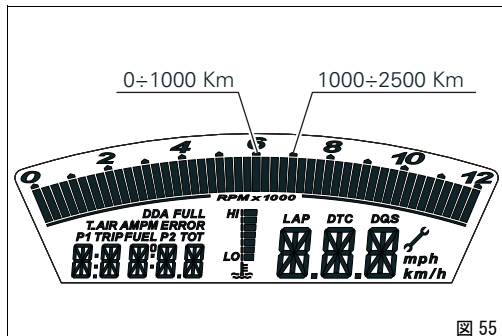


図 55

走行前の点検事項



警告

走行前にこれらの点検を怠った場合、車両に損傷を与え、ライダー、及びパッセンジャーを危険に晒す恐れがあります。

走行前に以下の点検を実施して下さい：

タンク内の燃料残量

タンク内の燃料の残量を確認して下さい。必要であれば給油して下さい (78 ページ参照)。

エンジンオイル量

点検窓からタンク内のオイル残量を点検します。必要であればオイルを補充して下さい (96 ページ参照)。

ブレーキ、クラッチフルード量

各リザーバー内のフルードレベルを確認します (82 ページ参照)。

クーラント量

クーラントタンクの液量を確認します。必要であれば補充して下さい (81 ページ参照)。

タイヤコンディション

空気圧と摩耗度を点検します (94 ページ参照)。

コマンド類の機能点検

ブレーキ、クラッチ、アクセル、トランスミッション等の作動レバーまたはペダルを作動させて機能を確認します。

ランプ類、インジケーター

ランプ、インジケーター、ホーンが適切に機能するかを確認します。電球が切れている場合には交換して下さい (90 ページ参照)。

各ロック

フィラープラグ (63 ページ参照) およびシート (64 ページ参照) のロック状態をチェックします。

スタンド

サイドスタンド (65 ページ参照) がスムーズに作動し、適切な位置にあるかを確認します。



警告

不良な点がある場合には、車両の使用を中止し、Ducati オフィシャルディーラーにご連絡下さい。

エンジンの始動




警告

エンジンを始動する前に、運転に必要なコマンドの取り扱いに慣れておいて下さい (10 ページ)。



警告

屋内では絶対にエンジンを始動したり、作動させたりしないで下さい。排気ガスは有毒ですので、短時間で意識を失ったり、さらには死亡にまで至る危険性があります。

- 1) イグニッションキーを ON にします (1、図 56)。緑のランプ N と赤のランプ  が点いている事を確認してください。



重要

オイルプレッシャー表示ランプはエンジン始動後、数秒で消えなければなりません (11 ページ)。



警告

サイドスタンドが完全に上がって (水平) いない場合、安全センサーが作動して始動できません。

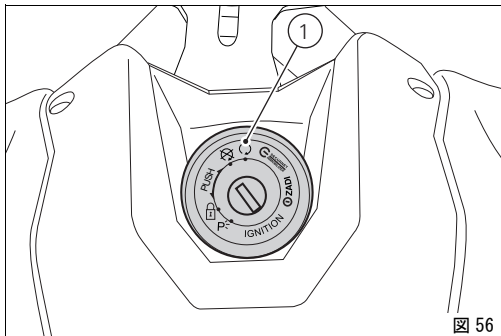


図 56

参考

サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態
でエンジンを始動させることができます。または、ギアが
入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いたま
まの状態が始動させてください（この時サイドスタンドは上
がっていません）。

- 2) エンジnstopsスイッチ (2、図 57) が○(RUN) の位
置になっていることを確認してから、スタートボタ
ン (3、図 57) を押します。

重要

エンジン冷間時は回転数を上げ過ぎないで下さい。潤
滑が必要な全ての部分にオイルを行き渡らせるために、エ
ンジンが温まるのを待ってください。

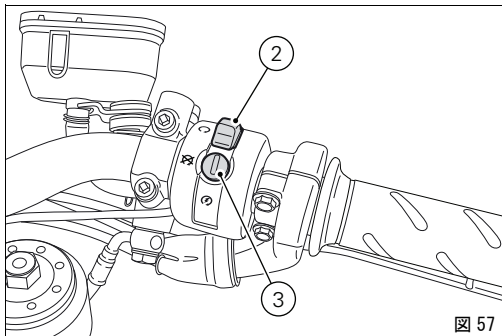


図 57

車両の発進

- 1) クラッチレバーを引いてクラッチを切ります。
- 2) 1速に変速するためにギアチェンジペダルをつま先でしっかり押し下げます。
- 3) スロットルグリップを回してエンジンの回転数を上げ、同時にクラッチレバーを徐々につなぐと、車両は発進し始めます。
- 4) クラッチレバーを完全に離し、エンジンの回転数を上げます。
- 5) シフトアップするには、エンジン回転を落とすためにスロットルを戻し、クラッチを切り、ギアシフトペダルをかき上げ、クラッチをつなぎます。

シフトダウンは以下のように行います：スロットルグリップを放し、クラッチレバーを引いてから、ギアを同調させやすくするためにエンジンを軽くふかしてシフトダウンし、クラッチを放します。

これらの作業は適切に素早く操作しなければなりません。上り坂を走行する際には、車速が落ちてきたらすぐにシフトダウンし、車両への異常なストレスやエンジンのノッキングを避けて下さい。

重要

急な加速操作は、オーバーフローやトランスミッションのスナッチを招きますので避けて下さい。ギアを変速した後もクラッチレバーを引いたまましていると、機械部分の過熱や摩擦部分の異常な摩耗を引き起こします。

ブレーキ操作

減速するには、最初にスロットルグリップを戻してエンジンブレーキをかけ、それからブレーキングします。エンジンが急に止まるのを防ぐため、車両が停止する前に、クラッチを切ります。



警告

レバーとペダルの内、片方だけ使用するとブレーキ効力が低下します。

ブレーキ類は急激に力づくで操作すると、ホイールのブロックが生じ、車両のコントロールを失います。

雨中を走行する際や、滑りやすい路面上ではブレーキ力が著しく低下します。このようなコンディションでは慎重に優しくブレーキ操作をして下さい。急ブレーキは車両のコントロールを失う危険があります。長く急な下り坂を走行する際にはシフトダウンしてエンジンブレーキを使用します。ブレーキは断続的に短時間だけ使用して下さい。ブレーキの長時間にわたる連続的使用は、摩耗材の過熱を招き、ブレーキ能力の著しい低下の原因となります。規定空圧以外のタイヤはブレーキ能力を低下させるとともに摩耗を早め、また運転の確実性と、カーブでの安定を欠きます。

車両の停止

スロットルグリップを緩めると、車両は徐々にスピードを落とし始めます。シフトダウンしながらクラッチをつなぎ、最後に1速からニュートラルに入れます。ブレーキをかけると、車両を完全に停止することができます。エンジンを停止させるには、キーを(2、図58)ポジションにします。

重要

電気部品を損傷を避けるため、エンジン停止状態ではキーをON、ポジション(1、図58)に放置しないでください。

パーキング

停止させた車両をサイドスタンドを使い停車します。(65ページ参照)。

盗難防止のため、ハンドルを左に振りきり、キーを(3、図59)のポジションにします。

車両をガレージ、その他の建物内に駐車する際には、十分に換気され、車両の近くに熱源が無いことを確認して下さい。

必要な場合には、車両を認識しやすいよう、イグニッションキーを(4、図59)のポジションにするとパーキングランプを点灯しておくことができます。

重要

このキーを長時間ポジション(4、図59)の位置にしておくと、バッテリー切れの原因になります。監視できない場所に停車するときは、キーを付けたままにしないで下さい。

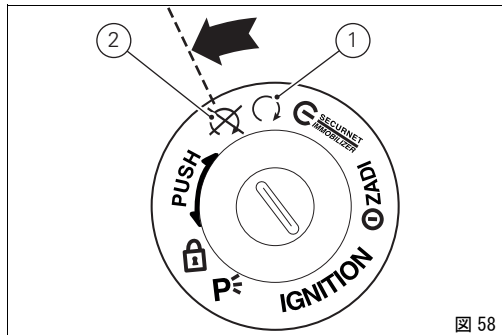


図 58

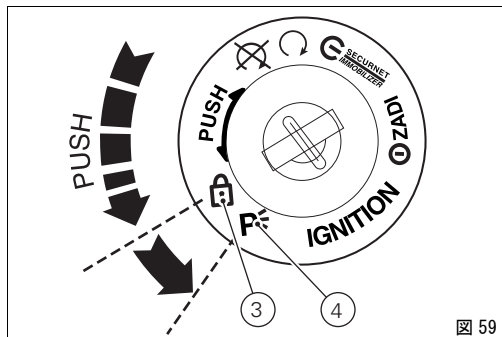


図 59



警告

エキゾーストシステムは、エンジンを止めた後も熱い場合があります。手を触れないよう充分注意し、車両を木材、木の葉などの可燃物のそばに駐車しないようにして下さい。



警告

発進を妨げるタイプの盗難防止用ロック（ディスクロック、ホイールロック等）は大変危険で、車両の機能とライダーおよびパッセンジャーの安全をおびやかす恐れがあります。

燃料の補給 (図 60)

給油の際、入れすぎないように注意してください。燃料は給油口の下縁をこえてはいけません。



警告

ガソリンは無鉛に出来るだけ近いもの、もしくはオクタン価 RON が最低 95 のものを使用してください (105 ページ “補給” 参照)。

プラグの上部に燃料が溜まってないことを確認します。



警告 (USA バージョン)

ガソリンは無鉛に出来るだけ近いもの、もしくはオクタン価最低 90 (RON+MON)/2 のものを使用してください

(105 ページ “補給” 参照)。



警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁止されています。この燃料を使用すると車両のエンジン及び部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用すると保証の対象外になります。

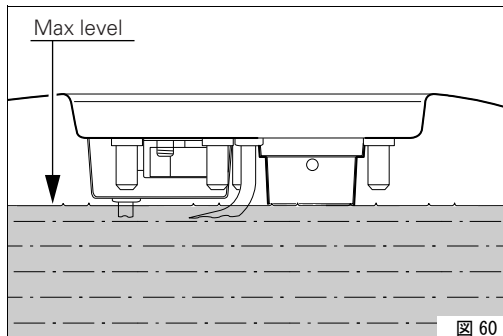


図 60

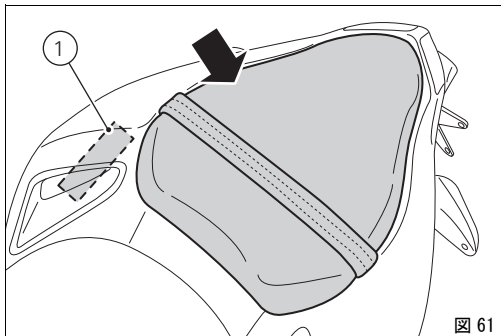
付属アクセサリー（図 61）

オーナーズマニュアルはパッセンジャーシート下部にあります。

車両右サイドのテールガード内側にベルクロテープで取り付けられているツールキット (1) は次の部品が装備されています：

- スパークプラグ用六角レンチ
- スパークプラグレンチ用ボルト
- ダブルスクリュードライバー
- フェアリング用アレンレンチ

ツールキット (1) を使用するには、112 ページに示した通り、ライダーシートを取り外します。



USB コンパレーター



参考

スペアパーツで USB コンパレーター (1) を購入することができます。

キャップ (2) および主要配線に接続したコネクター (3) と共にシート下に配置して使用します。

“DDA コンパレーター” 作業に関しては “LCD パラメーター設定 / 表示” 内を参照して下さい。



参考

Ducati Data Analyzer (DDA) の所有者は Online サービスを利用することができます (<http://dda.prosa.com>)。このサービスでは、DDA を正しく利用するために必要な情報などをデバイスから取得したデータ分析のためのソフトウェアまで、全て提供します。



警告

使用が終了したら DDA コンパレーターを主要配線から外します。

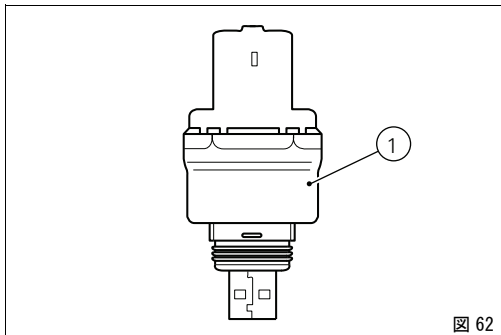


図 62

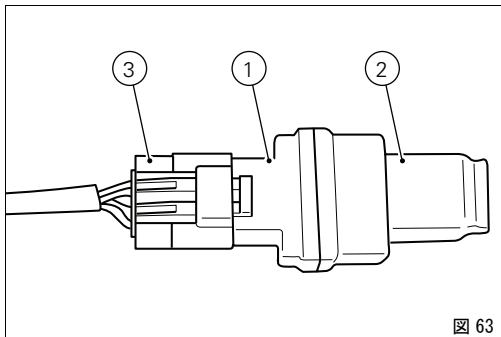


図 63

主な整備作業とメンテナンス

上記に示された混合液を使用することで最良のコンディションを保つ事が出来ます (-20° C/-4° F から凍結し始めます)。

クーリングシステムの容量：2.3 リットル



警告

この作業は、エンジン冷間時に車両が完全に垂直で安定した状態で行って下さい。

エアフィルターの交換



重要

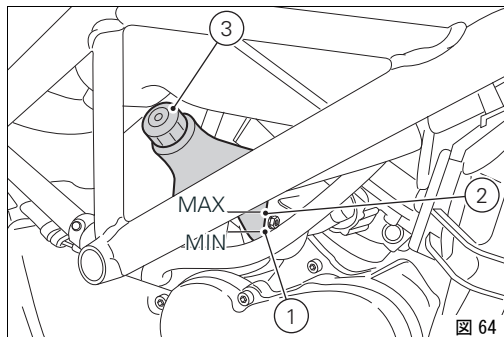
エアフィルターのメンテナンス作業は Ducati ディーラーまたは Ducati サービスセンターにご連絡下さい。

クーラントレベルの点検および補充 (図 64)

車両右側にあるエキスパンションタンク内のクーラントレベルを点検します。レベルは (1) と (2) の間でなければなりません：(2) は MAX レベル (1) は MIN レベル
液体レベルが MIN 以下の場合には補充します。

フィラープラグ (3、図 64) ゆるめ、希釈水と不凍液 SHELL Advance Coolant または Glycoshell (35 ~ 40%) の混合液を MAX. のレベルになるまで補充します。

プラグ (3) をしっかりと閉め、取り外したパーツを元通りに取りつけます。



ブレーキ / クラッチ液レベルの点検

ブレーキ、クラッチフルードのレベルは、絶対に各リザーバーのMIN目盛り以下になってはいけません（図 65）（図示はフロントおよびリアブレーキフルードリザーバー）。

液体レベルが下がりすぎると、回路内に空気が混入し、システム作動に悪影響を及ぼします。

また、定期点検表で指定されているブレーキ / クラッチフルード補充及び交換は、Ducati ディーラーまたはサービスセンターに依頼して下さい。

重要

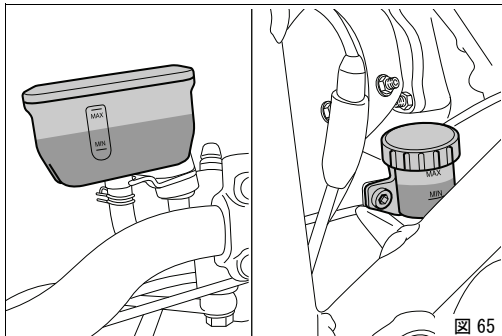
ブレーキ、クラッチシステムのパイプは 全て 4 年毎に交換して下さい。

ブレーキシステム

ブレーキパッドが磨耗していないのに、ブレーキレバー、ブレーキペダルの過度の遊びに気付いた場合には、Ducati ディーラーまたはサービスセンターに連絡し、システムの点検とエア抜きを行って下さい。

警告

ブレーキ / クラッチフルードはプラスチックおよび塗装部分に損傷を与えますので、こぼさないようにして下さい。これらの液体は腐食性ですので傷損害を与える恐れがあります。異なった品質のオイルを混ぜないで下さい。シールの状態をチェックしてください。



クラッチシステム

クラッチレバーに過度の遊びがあり、ギアチェンジの際クラッチにスナッチやジャダーが出る場合は、システム内にエアが混入している事があります。システムを点検しエアを排出する必要があるため、Ducati ディーラーまたはサービスセンターにご連絡下さい。



警告

クラッチフルードレベルはクラッチディスクの磨耗材の消耗によって上がる傾向があります。規定のレベルを超えないよう注意して下さい（最低レベルの3 mm上）。

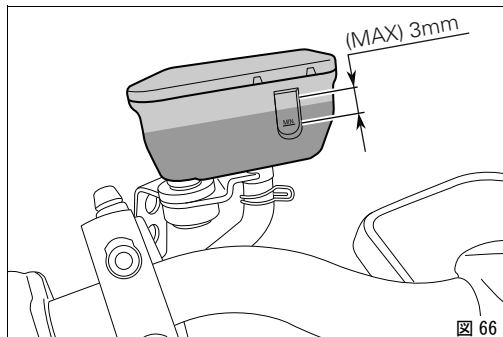


図 66

ブレーキパッドの摩耗点検 (図 67 と図 68)

キャリア間の開口部を通してパッドの摩耗を点検します。摩耗剤の厚さが一つでもおよそ 1mm ならば、両方のパッドを交換します。

! 警告

摩耗剤が消耗しすぎると、ブレーキディスクと金属製サポートが接触し、ブレーキの性能、ディスクの完全性、ライダーの安全性を損なう可能性があります。

● 重要

ブレーキパッドの交換は Ducati ディーラーまたはサービスセンターで実施して下さい。

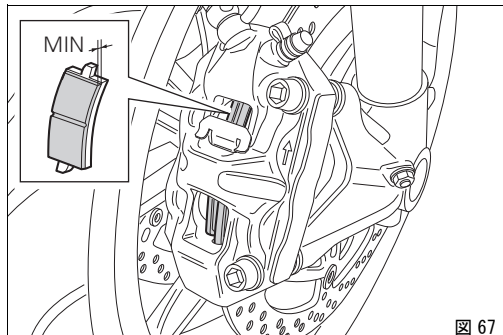


図 67

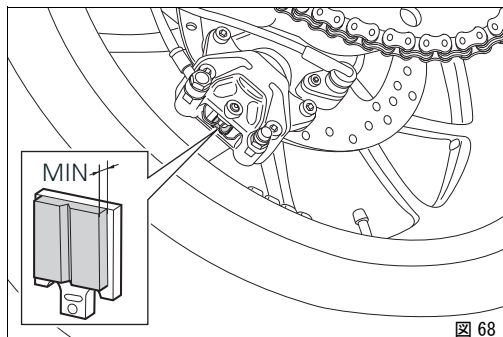


図 68

ジョイント部の潤滑

スロットルコントロールケーブル外部のシースの状態を定期的に点検する必要があります。外側プラスチック部に亀裂や押し潰された跡があってははいけません。スロットルグリップを動かして、インナーケーブルが滑らかに作動することを確認します。引っかかったり何か異常を感じる場合は、ディーラーまたは Ducati サービスセンターに交換を依頼して下さい。

このようなことを避けるためスロットルトランスミッションの場合は 2 本の固定スクリュー (1、図 69) を緩めてスロットルを開き、ケーブルの両端とプーリーをグリース SHELL Advance Grease または Retinax LX2 で潤滑します。



警告

プーリーの中にケーブルを入れ、注意しながらスロットルを閉じます。

カバーを付け、スクリュー (1) を 10 Nm のトルクで締め付けます。

サイドスタンドのスムーズな作動を確保するために、汚れを取り除き、全ての可動部分に規定のグリース SHELL Alvania R3 を塗布して下さい。

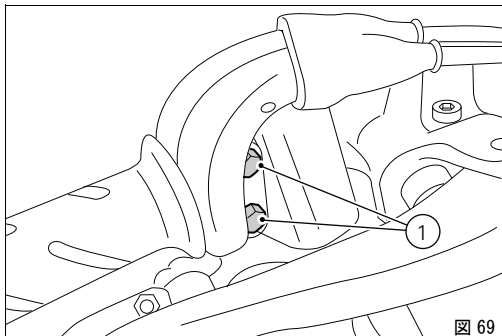


図 69

スロットルグリップの調整

スロットルコントロールグリップはどのステアリング角度においても、（グリップの端で測定）規定値：

1.5～2.0 mmの遊びがなければなりません。必要であれば、車体右側のステアリングチューブにある適切なアジャスター（1および2、図71）を使用して調整します。

アジャスター（1）はスロットル開度調整用で、（2）は閉度調整用です。

アジャスターからそれぞれの保護キャップ（3）を外し、ロックナット（4）を緩めます。両方のアジャスターを同程度に使用して、以下のように調整します。時計回りに回すと遊び量が増え、反時計回りに回すと減少します。調整が終了したらロックナット（4）を締め、アジャスターに保護キャップを取り付けます。

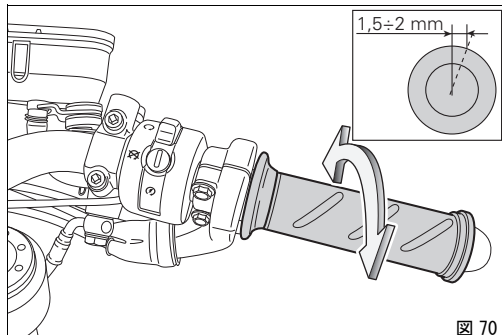


図 70

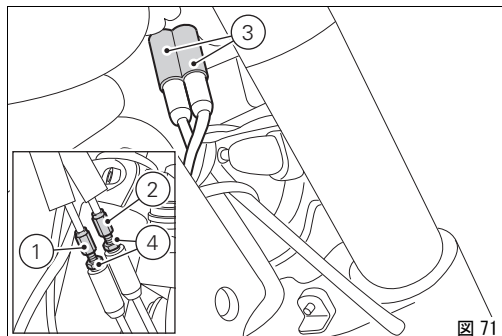


図 71

バッテリーの充電 (図 72、図 73)

バッテリーを充電する際、バッテリーを車両から取り外して下さい。パッセンジャーシートを取り外し (64 ページ参照)、スクリュー (1) を緩め、シート (2) 下部ケースを取り外します。黒のマイナス端子 (-) を最初に外し、続いて赤のプラス端子 (+) を外します。バッテリーを上に向けて取り外します。



警告

バッテリーは爆発性のガスを発生させます。熱源の近くに保管しないで下さい。

充電は換気のよい場所で行って下さい。

端子にチャージャーのコンダクターを接続します： 赤い端子はプラス (+)、黒い端子はマイナス (-)

重要

電源を入れる前にバッテリーをチャージャーに接続します。電源に接続する際に火花が発生し、セル内の可燃性ガスに引火する危険があります。接続は常に赤のプラス (+) 極から行って下さい。

バッテリーを車両に配置し、導電性を向上させるため、固定スクリューにグリースを塗布し、端子を電極に接続します。リアサブフレームにシート (2) 下部ケースを取り付け、スクリュー (1) で固定します。パッセンジャーシートを取り付けます (64 ページ参照)。



警告

バッテリーは幼児の手の届かないところに置いて下さい。

バッテリーは 0.9A で 5 ~ 10 時間充電します。

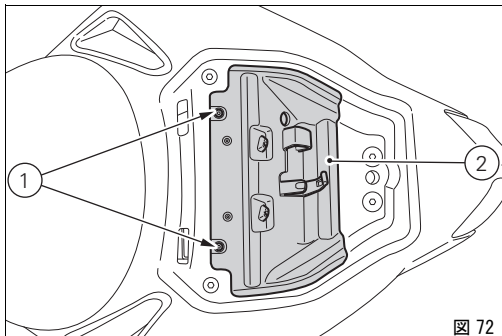


図 72

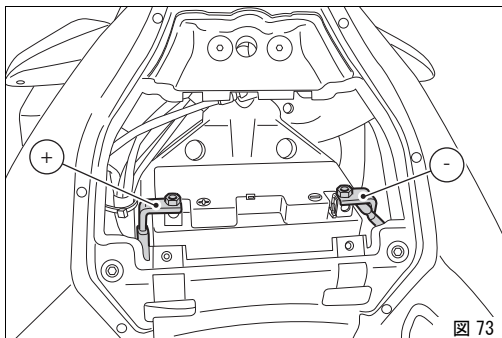


図 73

トランスミッションチェーン張力の点検 (図 74)

重要

チェーン張力の調整は Ducati オフィシャルディーラーまたはサービスセンターに依頼してください。

リアホイールを回転させ、チェーンが最も張る位置を探します。サイドスタンドに車両を駐車します。指の力だけで測定位置でチェーンを下方方向に押し、放します。チェーンピン中央及びスイングアームのアルミニウム間の距離 (A) を測定します。以下の数値でなければいけません。

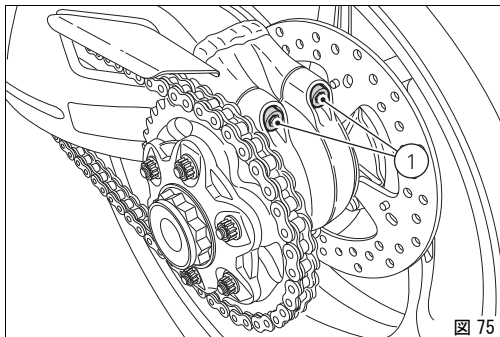
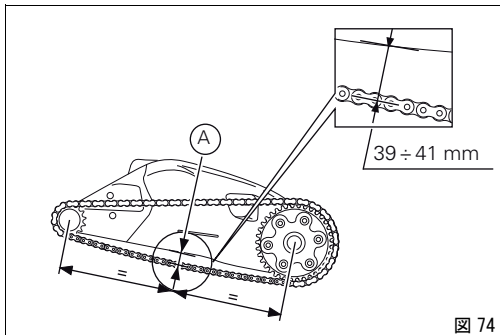
A = 39 ~ 41 mm

警告

安全な走行状態を保つにはスイングアームのスクリュー (1) を正しく締め付けることが非常に重要です。

重要

不適切なチェーンの張りは、トランスミッション部品の磨耗を促進させます。



チェーンの潤滑

この車両には、泥などの侵入を防ぎ、潤滑をより保つ0リングシールの付いたチェーンが装備されています。

チェーンを洗浄する場合には、シールの損傷を防止するため、専用の溶剤を使用して下さい。ウォッシャー等でスチームや圧力のかかった水で洗浄しないで下さい。

洗浄後は、コンプレッションエアーでチェーンを乾かし、SHELL Advance ChainまたはAdvance Teflon Chainで潤滑します。



重要

規定オイル以外を塗布すると、チェーン、フロント / リアスプロケットに損傷を与える可能性があります。

ハイ / ロービーム電球の交換

切れた電球を交換する前に、新しい電球が 111 ページの “電気システム” の各仕様に適合しているか確認します。取り外した部品を取りつける前に、新しい電球が機能するかを確認して下さい。

図 76 にはロービーム (LO) / ハイビーム (HI) ランプ (1) およびパーキングランプ (2) 配置が図示されています。

ヘッドランプ

重要

ロー / ハイビームの電球を交換するには、Ducati ディーラーまたはサービスセンターにご連絡下さい。

警告

雨天時または洗車後に車両を使用する際、ランプレンズが曇っている場合があります。レンズ内の結露はランプを点灯すると短時間で消えます。

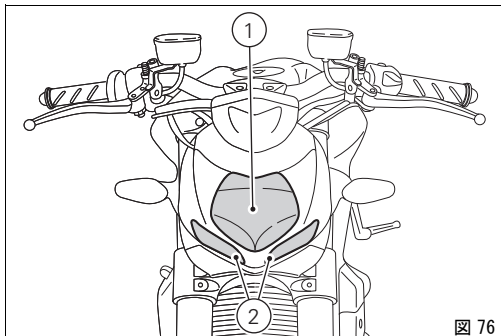


図 76

リアターンインジケータ (図 77)

スクリュー (1) を外し、カバー (2) とターンインジケータのホルダーを別々にします。

電球はバイヨネットベースタイプなので、取り外すには押しながら反時計回りに回します。新しい電球は、押しながら時計回りにカチッという音がするまで回して取り付けます。サポートのスロットにランプカバー (2) のツメを差し込みます。

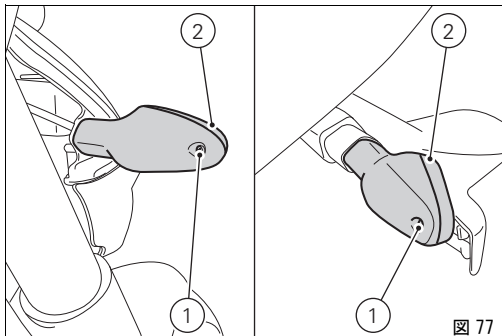


図 77

ナンバープレートランプ (図 78)

電球を交換するには、ナンバープレートランプ (3) のレンズを開き、電球を外して交換します。

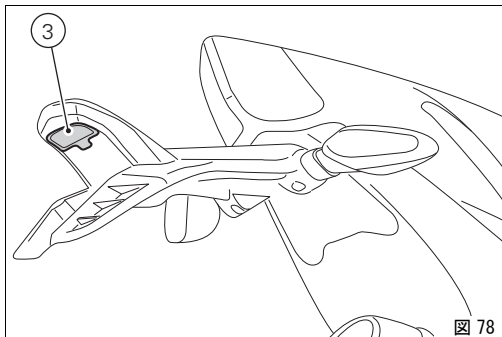


図 78

ヘッドランプの光軸調整 (図 79)

ヘッドランプの光軸をチェックするには、適切な空気圧のタイヤの車両にまたがり、車体を垂直に保ち、縦軸に対して正しい角度を保持します。車両は壁またはスクリーンから 10m の距離に配置します。壁にヘッドランプの中心と同じ高さで水平に線を引き、また車体の縦軸に一致する垂直線も引きます。

この作業はできれば薄暗い時間に実施して下さい。

ロービームを点灯します：

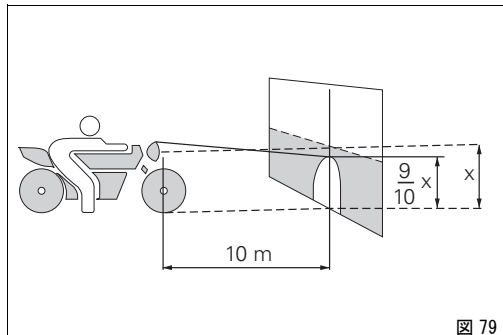
光の照射範囲の高さが（照射された部分と明るいの部分との境界の上限）、地上からヘッドランプの中心までの高さの $\frac{9}{10}$ 以下でなければなりません。



参考

この方法は、イタリアの基準で制定された照射角度に準拠したものです。

イタリア以外の国での使用は、それぞれの国で法律に従い調整してください。



左側ヘッドランプの水平方向の光軸調整は、ヘッドランプ裏にある調整スクリュー (1、図 80) で行います。スクリューを時計回りに回すと光軸は右に、反時計回りに回すと左に移動します。

左側ヘッドランプの垂直方向の光軸調整は、ヘッドランプ裏にある調整スクリュー (2、図 81) で行います。スクリューを時計回りに回すと光軸は下がり、反時計回りに回すと上がります。

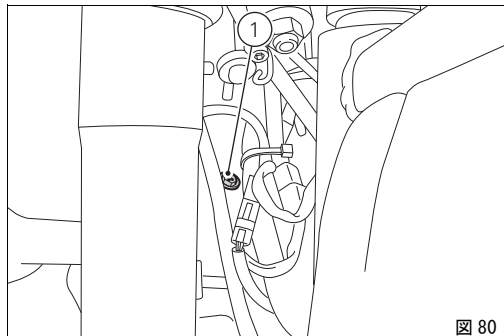


図 80

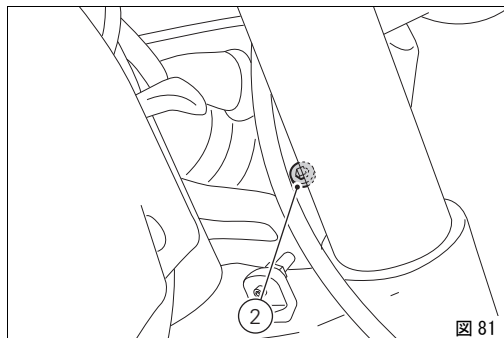


図 81

チューブレスタイヤ

フロントタイヤ空気圧：

2.5 bar

リアタイヤ空気圧：

2.5 bar

タイヤの空気圧は外気温や高度によっても変化しますので；高度の高い場所や気温差のある場所を走行する場合は、毎回点検と調整を行って下さい。



重要

タイヤの空気圧はタイヤ冷間時に測定しなければなりません。

フロントリムがダメージを受けないように、悪路を走行する時はタイヤの空気圧を 0.2 ~ 0.3bar 上げて下さい。

タイヤの修理、交換（チューブレス）

タイヤに小さな穴が開いた場合、チューブレスタイヤは空気の減り方が遅いため、気付くまで時間がかかる事があります。タイヤの空気圧が下がってきた場合には、パンクの可能性をチェックします。



警告

タイヤがパンクした場合はタイヤを交換して下さい。交換する際は、標準装備タイヤと同じメーカー、タイプを指定してください。

走行中のエア漏れを防ぐため、タイヤのバルブキャップがしっかり締まっていることを確認します。チューブタイプのタイヤは絶対に使用しないで下さい。突然タイヤが破裂し、ライダー、パッセンジャーの安全に大きな危険を及ぼします。

タイヤ交換の後には、必ずホイールバランスの点検を行って下さい。



重要

ホイールバランスのウェイトを外したり、移動させたりしないで下さい。



重要

タイヤの交換が必要な場合は、ホイールを正しく着脱することが大切ですので、Ducati オフィシャルディーラーまたはサービスセンターにご依頼下さい。

タイヤ摩耗の限度

タイヤのトレッド面が一番摩耗している箇所の (S、図 82) 溝の深さを測定します：

溝の深さは 2mm 以下、または道交法の規定値以下であってはなりません。

重要

タイヤを定期的に点検します。特に側面に傷やヒビがないか、でっぱり、広範囲のシミ、内部の損傷を表す箇所がないかを注意深く目視点検して下さい。損傷が著しい場合はタイヤを交換して下さい。

トレッドに入り込んだ石や異物は取り除いて下さい。

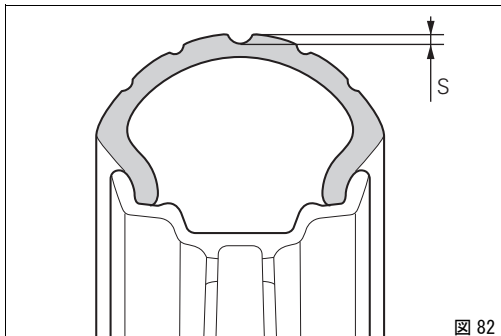


図 82

エンジンオイルレベルの点検 (図 83)

エンジンオイルの量は、クラッチカバーにある点検窓 (1) から見るすることができます。レベルチェックは車体を垂直に配置し、エンジン冷間時に行ってください。オイル液面は、点検窓の横に指示された目盛の間になければなりません。オイル量が不足している場合は、エンジンオイル SHELL Advance 4T Ultra を補充してください。注入口キャップ (2) を外し、指定のオイルを所定のレベルまで補充してください。プラグを取り付けます。

重要

保証書に記載されている定期点検表に従い、エンジンオイルとフィルターの交換は、Ducati ディーラーまたはサービスセンターににご依頼下さい。

粘度

SAE 15W-50

車両使用環境の気温が表示された規定範囲内であれば、表に示された以外の粘度のオイルも使用できます。

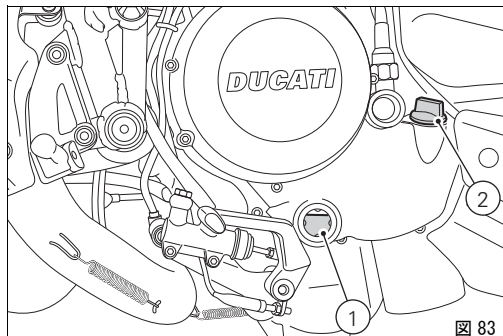
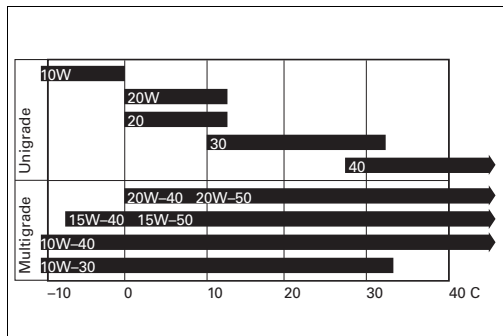


図 83



スパークプラグの清掃と交換 (図 84)

スパークプラグはスムーズなエンジンの作動にとっても重要ですので、定期的な点検が必要です。

定期的に検査をすることにより良好なエンジンの状態を保つ事が可能になります。

スパークプラグの点検、または交換はオフィシャルディーラーまたはサービスセンターに依頼してください。中央電極のセラミック製絶縁体の色具合をチェックします：均等な薄い茶色の場合はエンジンの良好なコンディションを示します。



参考

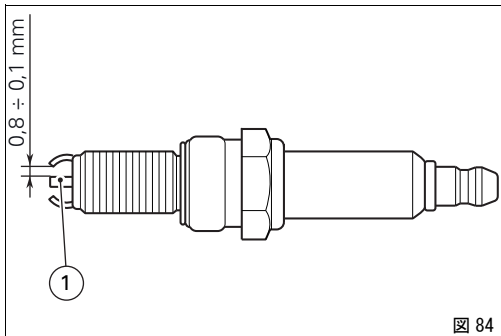
中央電極の摩耗状態、電極間の距離の点検：

0.8~0.1 mm



重要

広すぎたり、狭すぎたりするとエンジン性能に影響を及ぼし、また、始動困難やアイドリングの不安定などを招きます。



車両の清掃

塗装部分とメタリック部分の本来の艶を長い間保つため、走行する道路のコンディションに合わせて、車両を定期的な清掃、洗車しなければなりません。車両に損傷を与えないように、強すぎる洗剤や溶剤を使用しないために専用の洗剤と水を使って洗車します。プレキシガラスおよびシート部の清掃には、中性洗剤および水のみを使用して下さい。定期的にアルミニウム製部品を手作業で清掃してください。研磨剤や水酸化ナトリウムが含まれていないアルミニウム専用洗剤を使用してください。

参考

研磨剤付きスポンジやスチールウールは使用せず、柔らかい布のみを使用してください。

十分なメンテナンスが行われていない車両は保証の対象になりません。

重要

走行後のボディがまだ暖かい間は、水染み等を防ぐためすぐには洗車をしないで下さい。高温や、ウオッシャー等の圧力のかかった水で洗淨しないで下さい。ウオッシャー等の使用は、フォークやホイールハブ、エレクトリカルシステム、ランプ内部の結露（くもり）、フォークシール、エアダクト、エキゾーストサイレンサーの磨耗や変形をもたらし、車両の安全を損ねる恐れがあります。

エンジンにひどく汚れた部分や油脂汚れなどがある時は、油取り用洗剤を使って、トランスミッション系統（チェー

ン、ギア、リム等）に洗剤がかからない様に洗淨します。水道水で良くすすぎ、車体全表面部をセーム革で拭きます。



警告

洗車後は、ブレーキ能力が落ちることがあります。ブレーキディスクには絶対に、グリースやその他のいかなるオイルを付けしないで下さい。ブレーキ能力が失われます。ディスクは非油性の溶剤で清掃してください。



警告

洗淨、雨、または結露はヘッドランプレンズのくもりを生じさせる事があります。レンズ内の結露はランプを点灯すると短時間で消えます。

長期間の保管

車両を長期間使用しない場合、保管する前に以下の作業を実施するようお勧めします：

車両を清掃します。

燃料タンクを空にします。

スパークプラグの穴からシリンダーの中に数滴のエンジンオイルを注入し、エンジンを手で数回転させてシリンダー内壁に保護膜を形成させます。

サービススタンドで車両を支えます。

ケーブルを外し、バッテリーを取り外します。

1ヶ月以上車両を使用しなかった場合には、バッテリーの点検と充電、交換を行う必要があります。

結露を防止し塗装を保護するため、車体はカバーで覆います。

車体カバーは Ducati パフォーマンスにて取り扱っていません。

重要注意事項

国によっては（フランス、ドイツ、イギリス、スイス等）排気ガス、騒音規制の基準を設けている場合があります。法に義務付けられた定期点検を行う他、規制に適さない部品がある場合は、適合する Ducati オリジナルパーツと取替えて下さい。

メンテナンス

メンテナンスプログラム：ディーラーで行うメンテナンス

メンテナンス項目 / 作業内容 (km / マイル毎、または経過時間*)	Km. x1000	1	12	24	36	48	期間 (月)
	マイル x1000	0.6	7.5	15	22.5	30	
DDSによる不具合メモリー読取り及びコントロールユニットのソフトウェアバージョン更新の確認		●	●	●	●	●	12
テクニカルアップデート及びリコールの有無の確認		●	●	●	●	●	12
エンジンオイル及びフィルターの交換		●	●	●	●	●	12
エンジンオイルインテークフィルター清掃		●					-
バルブクリアランスの点検と調整				●		●	-
タイミングベルトの交換				●		●	60
スパークプラグの交換			●	●	●	●	-
エアフィルターの交換				●		●	-

メンテナンス項目 / 作業内容 (km / マイル毎、または経過時間 *)	Km. x1000	1	12	24	36	48	期間 (月)
	マイル x1000	0.6	7.5	15	22.5	30	
ブレーキ / クラッチフルードレベルの点検		●	●	●	●	●	12
ブレーキ / クラッチフルードの交換							36
ブレーキパッドとディスクの摩耗点検 必要であれば交換		●	●	●	●	●	12
セキュリティ部品の締め付けの点検 (ブレーキディスクのフランジのスク リュー、ブレーキキャリパーのスクリュー、フロント及びリアホイールの ナット、セカンダリートランスミッションのスプロケット及びリアspro ケットのナット)		●	●	●	●	●	12
リアホイールシャフトの点検と潤滑				●		●	-
チェーン張力の点検と潤滑		●	●	●	●	●	12
ファイナルドライブ (チェーン、スプロケット、リアスプロケット) 及び チェーンガイドの摩耗の点検			●	●	●	●	12
フロントフォーク及びリアショックアブソーバーのシーリング部品の目視点 検		●	●	●	●	●	12
フロントフォークオイルの交換							36
サイドおよびセンタースタンドの動作及び締め付け点検 (装備している場合)		●	●	●	●	●	12
フレキシブルケーブルと配線ケーブルの摩擦部分、遊び、動作、位置の目視 点検		●	●	●	●	●	12
クーラントレベルのチェック		●	●	●	●	●	12
クーラントの交換							36
電動ファンの作動点検		●	●	●	●	●	12
タイヤ圧、磨耗点検		●	●	●	●	●	12

メンテナンス項目 / 作業内容 (km / マイル毎、または経過時間*)	Km. x1000	1	12	24	36	48	期間 (月)
	マイル x1000	0.6	7.5	15	22.5	30	
バッテリーチャージレベルの点検		●	●	●	●	●	12
アイドリング点検		●	●	●	●	●	12
セキュリティー電気装置の作動点検 (サンドスタンドセンサー、フロント及びリアブレーキスイッチ、エンジン停止スイッチ、ギア / ニュートラルセンサー)		●	●	●	●	●	12
ランプ、インジケータの点検		●	●	●	●	●	12
DDS を介したサービスインジケータのリセット		●	●	●	●	●	12
セキュリティーデバイス (例、ABS 及び DTC) テストを兼ねた道路上の試運転		●	●	●	●	●	12
車両の清掃		●	●	●	●	●	12
保証書にある実施サービスチェックの記入		●	●	●	●	●	12

* 走行距離 (km) または経過月数のうち、どちらか最初の期限に達した場合に作業を実施して下さい。

メンテナンスプログラム：お客様が行えるメンテナンス

メンテナンス項目 / 作業内容 (km / マイル毎、もしくは経過時間 *)	Km. x1000	1
	マイル x1000	0.6
	月数	6
エンジンオイルレベル点検		●
ブレーキ / クラッチフルードレベルの点検		●
タイヤ圧、磨耗点検		●
チェーン張力の点検と潤滑		●
ブレーキパッドの点検 必要であれば、ディーラーにて交換して下さい。		●

* 走行距離 (km) または経過月数のうち、どちらか最初の期限に達した場合に作業を実施して下さい。

テクニカルデータ

全体寸法 (mm) (図 85)

重量

走行時の燃料抜きの重量：
188 kg

重量 (燃料およびバッテリー抜き)

169 kg

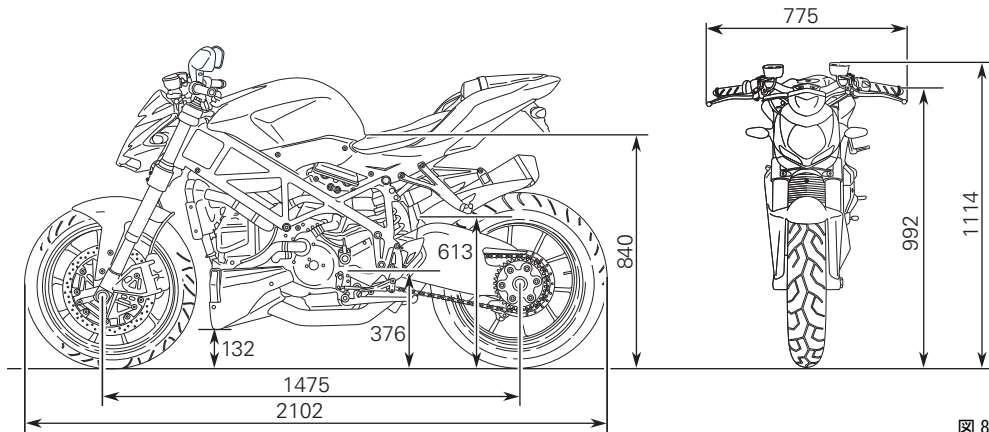
重量 (燃料込み)：

390 kg



警告

重量制限を遵守しない場合、操縦性と性能の低下を招き、車両のコントロールを失う原因となります。



燃料補給	タイプ	
燃料タンク、リザーブ 4 リットルを含む	オクタン価 RON95 以上の無鉛ガソリン USA バージョンの車両にはオクタン価 90 (RON+MON)/2 以上の無鉛ガソリンを使用します。	16.5 リットル
潤滑回路	SHELL - Advance 4T Ultra	3.7 リットル
フロント / リアブレーキシステム、クラッチ	油圧システム用 SHELL - Advance Brake DOT 4	—
電極保護液	配線用スプレー SHELL - Advance Contact Cleaner	—
フロントフォーク	SHELL - Advance Fork 7.5 または Donax TA	オイルレベル 390cm ³ (シャフトごと)
クーラントシステム	不凍液 SHELL - Advance Coolant または Glycoshell 35 ~ 40% + 水溶液	2.9 リットル



重要

燃料、オイル等には添加剤を絶対に加えないで下さい。この燃料を使用すると、車両のエンジン及び部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。



警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁止されています。この燃料を使用すると車両のエンジン及び部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用すると保証の対象外になります。

エンジン

90° L型、2気筒4ストローク

ボア mm:

94

ストローク mm:

61.2

総排気量、cm³:

849

コンプレッション比:

13.2 ± 0.5:1

クランクシャフト最大出力 (95/1/EC)、kW/馬力:

97 kW/132馬力 / 10,000rpm

クランクシャフトトルク最大回転数、(95/1/EC):

9.5 kgm / 93.5 Nm/9,500rpm

最大回転数、rpm:

11,300

重要

どんな状況でも許容最大回転数を越えた状態で走行してはいけません。

タイミングシステム

デスモドロミックシステム : シリンダーごとに4本のバルブ、8本のロッカーアーム (4 オープニングロッカーアーム、4 クロージングロッカーアーム) クランクシャフトよりスパーギアとベルトローラー / コグドベルトで駆動されるカムシャフトによって制御されます。

デスモドロミックタイミングシステム (図 86)

- 1) オープニング (アッパー) ロッカーアーム
- 2) オープニングロッカーシム
- 3) クロージング (もしくはロア) ロッカーアームシム
- 4) ロッカーアームリターンズプリング
- 5) クロージング (もしくはロア) ロッカーアーム
- 6) カムシャフト
- 7) バルブ

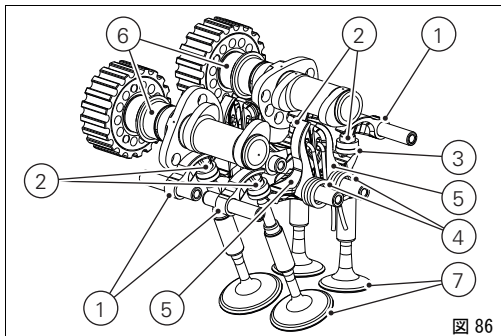


図 86

性能データ

各ギアにおける最高速度への到達は適切な規定点検整備を受けて、適正な慣らし期間終了後に限ります。



重要

これは保証の必須条件で、この条件が順守されなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮について、Ducati モーターホールディング社はいかなる責任を負うものではありません。

スパークプラグ

メーカー：

NGK

タイプ：

MAR10A-J

燃料供給

マレツリ製間接式エレクトロニックインジェクションシステム

スロットルボディ径：

60 mm

インジェクター（各シリンダー）： 1

インジェクター穴： 12

ガソリン供給： 95-98 RON



警告 (USA バージョン)

オクタン価 90 (RON+MON)/2 以上の無鉛ガソリンを使用します。



警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁止されています。この燃料を使用すると車両のエンジン及び部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用すると保証の対象外になります。

ブレーキ

フロント

穴付きセミフローティングダブルディスク

ブレーキシュー材質：

スチール製

ハウジング材質：

アルミニウム製

ディスク直径：

320 mm

右側ハンドルレバーによる油圧コントロール

ブレーキキャリパーメーカー：

BREMBO

ブレーキパッド材質：

Toshiba TT 2182 FF

ポンプシリンダー

Ø 18 mm (PR18/19)

キャリパーシリンダー

Ø 32 mm (P4. 32K)

ポンプタイプ：

PR18/19

リアサスペンション

穴付き固定ディスク、スチール製

ディスク直径：

245 mm

車体右側ペダルによる油圧コントロール

メーカー：

BREMBO

ブレーキパッド材質：

FERIT I/D 450FF

ポンプシリンダー

Ø 11 mm (PS11b)

キャリパーシリンダー

Ø 34 mm (P34c)

ポンプタイプ：

PS11b



警告

ブレーキフルードは腐食性です。誤って目や皮膚に付いた場合は大量の流水で洗浄して下さい。

トランスミッション

乾式クラッチ / 左側ハンドルバーレバーによる操作
エンジンとギアボックスメインシャフト間の駆動伝達
エンジンプロケット / クラッチプロケット比 :

33/61

6速コンスタントギア、車体左側ペダルによる操作
ギアプロケット / リアプロケット比 :

15/42

変速比 :

1速 37/15

2速 30/17

3速 28/20

4速 26/22

5速 24/23

6速 23/24

トランスミッションチェーン :

メーカー :

レジナ

タイプ :

525 ZRPK

サイズ :

5/8" x 5/16"

リンク数 :

104

重要

上記のギア比は認可されたものですので、いかなることもあっても変更してはいけません。

この車両を競技用に仕様変更する場合には、Ducati モーターホールディング社から特別なギア比に関する情報を提供いたしますので、オフィシャルディーラーまたは Ducati サービスセンターにお問い合わせ下さい。



警告

リアプロケットの交換作業は、Ducati ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせ下さい。この部品の誤った交換作業はライダーの安全に深刻な危険をもたらす、車両に回復不能な損傷を与える原因となります。

フレーム

ALS450 スチール製パイプトレーリスフレーム

ステアリングアングル（片側）：

29°

ステアリングヘッドアングル：

24.5°

ホイール

軽合金製 10 スポークリム

フロント

サイズ：

MT 3.50x17"

リアサスペンション

サイズ：

MT 5.50x17"

ホイールはシャフト取り外し可

タイヤ

フロント

"チューブレス"ラジアルタイヤ

サイズ：

120/70-ZR17

リアサスペンション

"チューブレス"ラジアルタイヤ

サイズ：

180/60-ZR17

サスペンション

フロント

ハイドロリック倒立フォーク、プリロード（フォークインナーコイルスプリング）及びリバウンド/コンプレッション調整システム付き

スタンションチューブ直径：

43 mm

フォークレグ作動長：

127 mm

リアサスペンション

ショックアブソーバー上部のピボットポイントとフレームの間に、ロッカーアームが配置されたプログレッシブタイプです。

ショックアブソーバーはスプリングプリロード及びリバウンド/コンプレッションダンピングの調整が可能で、アブソーバー下部が基点となり、ピボットポイントは、軽合金スイングアームに接続されています。スイングアームはフレーム、エンジン用ピンの基点の回りを回転します。

このシステムは車両に高い安定性をもたらします。

ショックアブソーバーストローク：

62 mm

ホイールトラベル

127 mm

エキゾーストシステム

軽量“2-1-2”エキゾーストシステム、触媒システム、ラムダセンサー搭載 2本のinoxステンレススチール製サイレンサー

カラーバリエーション

Ducati アニバーサリーレッド、部品番号：473.101 (PPG)
クリアー、部品番号：228.880 (PPG)
レッドフレーム、ブラックホイール。

ファイターイエロー
サフェーサーファイターイエロー、部品番号 873.T223 (PALINAL)
ベースファイターイエロー、部品番号 928.T224 (PALINAL)
マットクリアー 2K、部品番号 923I2105 (PALINAL)
レーシングブラックフレーム、ブラックホイール

ステルスブラック
ベースサフェーサー 2K ブラック、部品番号 54M22705 (Akzo Nobel)
ベース、部品番号：54M22704 (Akzo)
クリアー、部品番号：55K23020 (AKZO)
Racing Black フレームおよびブラックリム。

電気リカルシステム

主要構成部品は以下の通りです：

ヘッドランプ：

電球タイプ：1 x H4 (12V-60/55W)

パーキングランプ：LED(13.5V - 6.1 W)

ハンドル上スイッチ

ターンインジケーター：

フロントターンインジケーター：電球タイプ：RY10W (12V-10W) オレンジ色

リアターンインジケーター：電球タイプ：RY10W (12V-10W) オレンジ色

警告ホーン

ストップランプスイッチ

バッテリー、12V-10Ah

ジェネレーター、12V-360W

エレクトロニックレギュレーターは左側リアサブフレーム(12、図 89)のコンタクター上にある30Aのヒューズで保護されています。

スターターモーター、12V-0.7kW

テール/ストップランプ：

LED(13.5V-0.3/3.8W)

ナンバープレートランプ：

電球タイプ：G5W (12-5W)



参考

電球の交換については90ページの“ロー/ハイビーム電球の交換”を参照して下さい。

ヒューズ

電装系を保護するためにヒューズボックスには9つのヒューズが装備されています。7つのヒューズのみ接続されており、あとの2つは予備です。

用途およびアンペアを知るには表を参照してください。

ヒューズボックス凡例 (図 87)

配置	内容	アンペア
1	Key-on	10 A
2	ファン	7.5 A
3	ライト	15 A
4	ダッシュボード (インストルメントパネル)	5 A
5	インジェクション	20 A
6	ECU (エンジンコントロールユニット)	5 A
7	スペア	20 A
8	スペア	15 A

メインヒューズボックス (9、図 87) はライダーシート (10、図 88) 下部に配置されています。フレームにライダーシートを固定しているスクリュー (11、図 88) をゆるめます。内側からゆっくり引き、持ち上げながら車両からライダーシート (10、図 88) を取り外します。ヒューズの交換には、各ヒューズの配置と定格が表記された保護カバーを外してください。

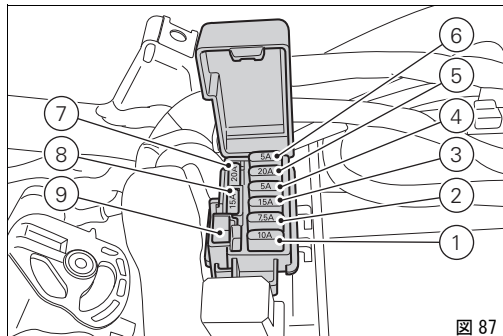


図 87

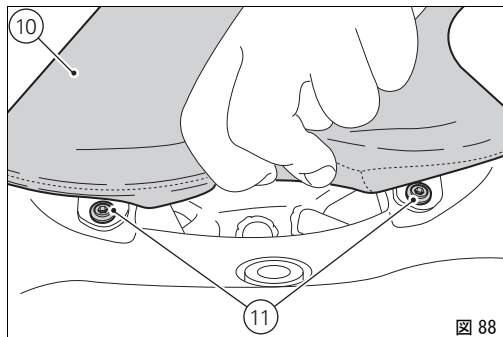


図 88

ヒューズ (12、図 89) はエレクトロニックレギュレーターを保護します。

重要

ヒューズ (12、図 89) に関しては、Ducati ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせ下さい。

切れたヒューズは、インナーフィラメントが溶断していることで確認できます (13、図 90)。

重要

回路のショートを防止するために、ヒューズ交換の前には、イグニッションキーを OFF にして下さい。

警告

表示されている規定以外のヒューズは決して使用しないで下さい。このルールを守らない場合には、エレクトリカルシステムに損傷を招き、火災の原因となります。

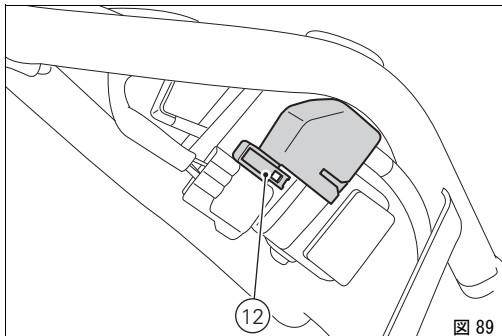


図 89

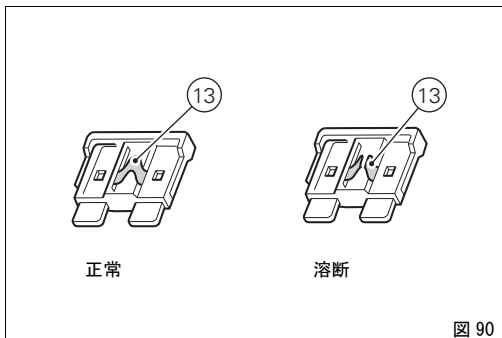


図 90

インジェクション / エレクトリカルシステム 配線図凡例

- 1) 右側スイッチ
- 2) キースイッチ
- 3) 左サイドファン
- 4) 右サイドファン
- 5) スターターモーター
- 6) スターターコンタクター
- 7) バッテリー
- 8) 調整ヒューズ
- 9) レギュレーター
- 10) ジェネレーター
- 11) 右リアターンインジケーター
- 12) テールランプ
- 13) ナンバープレートランプ
- 14) 左リアターンインジケーター
- 15) 燃料タンク
- 16) ステッパモーター
- 17) インジェクションリレー
- 18) 自己診断機能
- 19) 水平シリンダーコイル
- 20) 垂直シリンダーコイル
- 21) 水平シリンダースパークプラグ
- 22) 垂直シリンダースパークプラグ
- 23) ホリゾンタルシリンダーインジェクター 1
- 24) パーチカルシリンダーインジェクター 1
- 25) スロットルポジションセンサー
- 26) エンジン回転 / 作動センサー
- 27) クーラント温度センサー
- 28) リアスピードセンサー
- 29) サイドスタンド

- 30) 警告ホーン
- 31) ニュートラルスイッチ
- 32) オイルプレッシャースイッチ
- 33) リアストップスイッチ
- 34) ECU
- 35) ヒューズ
- 36) クラッチスイッチ
- 37) フロントストップスイッチ
- 38) 左側スイッチ
- 39) トランスポンダーアンテナ
- 40) 気温センサー
- 41) ターゲット
- 42) インストルメントパネル
- 43) ランプリレー
- 44) 左フロントターンインジケーター
- 45) ヘッドランプ
- 46) 右前部パーキングランプ
- 47) 右フロントターンインジケーター
- 48) EX-UP モーター
- 49) ファンリレー
- 50) 左前部パーキングランプ
- 51) データ取得
- 52) ラムダセンサー 1
- 53) クイックシフト (装備)
- 54) -
- 55) ラムダセンサー 2
- 56) イグニッションリレー
- 57) DTC
- 58) フロントスピードセンサー

配線カラー表

B 青
W 白
V 紫
BK 黒
Y 黄
R 赤
LB ライトブルー
GR グレー
G 緑
BN 茶
O オレンジ
P ピンク



参考

配線図はマニュアルの最後尾にあります。

定期点検メモ

KM	DUCATI サービスセンター名	走行距離	実施日
1000			
12000			
24000			
36000			
48000			
60000			

Stampato 01/2012

Cod: 913.7.182.1B

Ducati Motor Holding spa
www.ducati.com

Via Cavalieri Ducati, 3
40132 Bologna, Italia
Tel. +39 051 6413111
Fax +39 051 406580

cod 913.7.182.1B